

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION

Gunma University

群馬大学概要

2022

Contents

学長からのメッセージ	3
基本理念・ビジョン・目標	4
概要編	7
資料編	21



桐生キャンパス内の工学部同窓記念会館
(平成10年に国の登録有形文化財として登録)

キャッチコピー

群を抜け 駆ける 世界を

Break your boundaries, go global from Gunma

群馬大学で思いきり学び、経験し、地域から世界に飛び出して行って欲しいという、学生への想いを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんでて良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。



学長からのメッセージ

群馬大学長 石崎 泰樹

Ishizaki Yasuki

群馬大学は、知の拠点として地域の人材育成や地域社会を支える基盤となると同時に、グローバルな視点で活躍できる大学を目指します。

ご存じの通り、新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに、国際社会は大変革の時代に直面しています。リモートワークやリモート授業などの新しい生活様式の実践のためにも、大量の情報が発信され活用される、サイバー空間と現実空間が融合した超スマート社会Society 5.0に移行しています。

また、国際社会の一員として、2030年までにSDGs（持続可能な開発目標）を達成することが求められています。SDGsは2015年に国連サミットで採択された共通目標であり、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」などの17の目標と169のターゲットから成立しています。これらの目標を達成するために国際社会が一丸となり、SDGsの実現に向けた学問の探求及び教育研究の諸活動を通じて、豊かな人間性と高い専門能力を持った人材を養成すると共に、科学技術イノベーション（STI for SDGs）の更なる活用を推進しています。

SDGsの16番目の目標に「平和と公正をすべての人に」があります。しかし2022年2月24日、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始しました。これに対して群馬大学は3月7日に、言葉が大きな力となり、平和が回復し、無辜の人々が傷つくことが無い日が一日も早く来ることを願って、ロシアのウクライナ侵攻に強い抗議の言葉を発しました。さらに4月に入り、在日ウクライナ大使館と連携してウクライナから大学生、研究者を受け入れること、ポーランドに避難しているウクライナの大学生を支援するためにポーランド・ワルシャワ大学へ教育支援することを決定しました。6月の時点で、2名の大学生を受け入れ、彼らの学びを支援しています。群馬大学は今後も「平和と公正をすべての人に」提供すべく努めてまいります。

科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能な社会では、AIやIoT、ビッグデータの活用などが重要なキーワードとなります。しかし、情報の質の評価や人権の尊重に関する倫理的課題など、解決すべき多くの問題が残されています。

このような中で、群馬大学は2021（令和3）年4月1日に情報学部を新設し、理工学部の改組も実施しました。情報学部を核として、来るべき社会で必須となるICTリテラシーを全ての学生に提供し、全ての領域の学生・研究者の研究活動をデータサイエンスで支援します。また、数理データ科学教育研究センターを中核とした数理及びデータサイエンス教育の展開・普及や、食健康科学教育研究センターにおける共同研究及び社会人向け教育の拡充など、学部を超えた連携による取組みを実施しています。

1949（昭和24）年に制定された徽章は群馬大学が上毛三山に囲まれていることを表しています。上毛三山の中で荒牧キャンパスに最も近い赤城山は広い裾野を持っています。群馬大学も赤城山のように、広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、さまざまなレベルの知の峰を作り、世の中に発信していきたいと思っています。

群馬大学のビジョンである「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」の実現に向け、皆様の意見を広く取り入れ、地方創生に貢献すると共に「知と人材」のグローバルな集積拠点として、一層魅力ある大学になるよう、改革を進めてまいります。

歴代学長

代数	氏名	在任期間	代数	氏名	在任期間
初代	西成甫	昭和24. 5. 31～昭和36. 6. 20	第7代	前川正	昭和60. 12. 16～平成3. 12. 15
(事務取扱)	相葉伸	〃 36. 6. 21～〃 36. 7. 13	第8代	石川英一	平成3. 12. 16～〃 9. 12. 15
第2代	長谷川秀治	〃 36. 7. 14～〃 42. 7. 13	第9代	赤岩英夫	〃 9. 12. 16～〃 15. 12. 15
(事務取扱)	柴田勝博	〃 42. 7. 14～〃 42. 8. 31	第10代	鈴木守	〃 15. 12. 16～〃 16. 3. 31
第3代	秋月康夫	〃 42. 9. 1～〃 46. 8. 31	(国立大学法人 群馬大学長)	鈴木守	〃 16. 4. 1～〃 21. 3. 31
(事務取扱)	町田周郎	〃 46. 9. 1～〃 46. 12. 15	第11代	高田邦昭	〃 21. 4. 1～〃 27. 3. 31
第4代	石原恵三	〃 46. 12. 16～〃 50. 12. 15	第12代	平塚浩士	〃 27. 4. 1～令和3. 3. 31
第5代	畑敏雄	〃 50. 12. 16～〃 56. 12. 15	第13代	石崎泰樹	令和3. 4. 1～現在
第6代	小野周	〃 56. 12. 16～〃 60. 12. 15			

基本理念

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

ビジョン

「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」

目 標

教育

- 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えるとともに、学生が本来持っている潜在的な能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- 大学院教育においては、高い倫理観と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

研究

- 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。
- 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

社会貢献等[※]

- 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

※社会貢献等の「等」は国際交流を含みます。

大学運営

- 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

学部

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育課程編成と教育方法>

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度（成績）評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目及び専門科目を互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。
 - (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
 - (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
 - (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度（成績）評価方法に基づいて行います。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多様な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般選抜（前期・後期）の他に、特別選抜として総合型選抜、学校推薦型選抜、帰国生選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入学共通テスト、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に可否を判定します。

大学院

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

幅広く豊かな学識に立脚し、専門分野において創造性豊かに自立して研究活動を実践でき、高度な専門性・国際性を必要とする職業を担うための能力を身に付け、研究者・技術者・高度専門職業人としての倫理観を身に付けている人物で、各研究科・学府が課程又は専攻ごとに定めた修了要件を満たした者に、学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

国際的に活躍できる、創造的能力を備えた研究者及び実践力を有する高度専門職業人を養成するため、専門分野における基礎的素養を涵養し高度な専門的知識及び能力を修得させるよう、各研究科・学府の課程又は専攻の教育目標の達成に向けた体系的な教育課程を編成し、実施します。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

各研究科・学府が課程又は専攻ごとに求める学力・能力を持ち、研究や実践によって、人類社会の発展に貢献する意欲のある人を受け入れます。

概要編

Contents

概要編

学部	8 – 9
大学院・専攻科	10 – 12
附属施設	13
共同教育学部附属学校園、医学部附属病院	13
教育・研究関連施設等	14 – 18
生体調節研究所、総合情報メディアセンター	14
大学教育・学生支援機構	15
研究・産学連携推進機構	16
重粒子線医学推進機構	17
学内共同教育研究施設等、共同研究拠点等	18
国際交流	19
地域・社会との連携	20

共同教育学部 (荒牧地区)

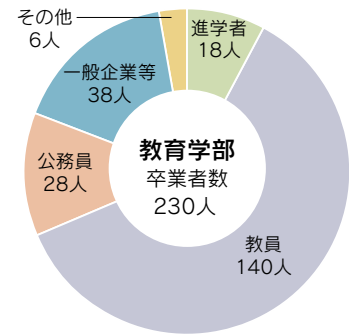
共同教育学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育をめぐる多様な課題について、柔軟かつ効果的に取り組むことのできる高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。



授業風景

課程	系	専攻	講座
学校教育教員養成課程	人文社会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
	自然科学	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
	芸術・生活・健康	音楽、美術、家政、保健体育	音楽教育、美術教育、家政教育、保健体育
	教育人間科学	教育、教育心理、特別支援教育	学校教育、特別支援教育

学部卒業者の進路状況



情報学部 (荒牧地区)

情報学部は、科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能社会の実現において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成する。

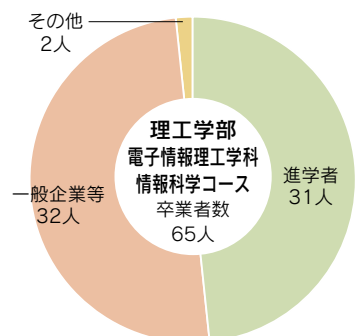
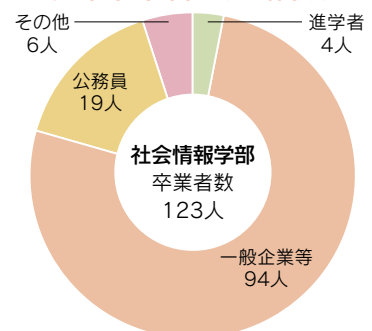


授業風景

(※2021年4月設置)

学科	プログラム
情報学科	人文情報プログラム
	社会共創プログラム
	データサイエンスプログラム
	計算機科学プログラム

学部卒業者の進路状況



医学部 (昭和地区)

医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、科学的知 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の3つの面 (SES) にわたって生涯自己研鑽を続けることができる人材の育成を目的としている。この目的を達成するために、SESを掲げたアウトカム基盤型教育を推進し、「生涯自己研鑽を続けることができる、優れた医師、医学研究者、医療行政官、医学教育者」の養成に努め、医学・医療と地域社会に貢献することを目指している。

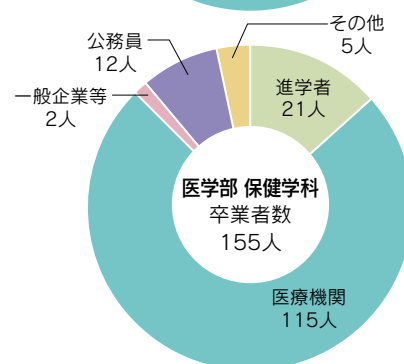
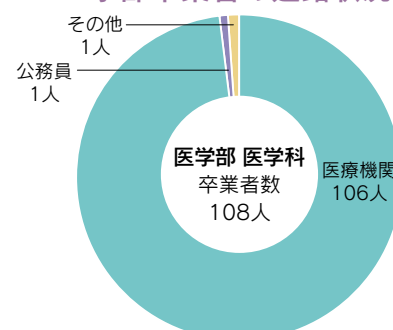
保健学科では、「高度化・専門化する保健医療の担い手となる、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士及び作業療法士の育成」、「医療技術の学問体系の確立と発展に寄与しうる専門職の育成」、「チーム医療においてリーダーシップを発揮できる人材の育成」、「国際社会で活躍できる専門職の育成」の4つの理念・目的を達成するため、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開している。

課 程		講 座 等
医学科		基礎医学教育部門、臨床医学教育部門、医学教育政策・支援部門
保健学科	看護学専攻	看護学講座
	検査技術科学専攻	検査技術科学講座
	理学療法学専攻	理学療法学講座
	作業療法学専攻	作業療法学講座



実習風景

学部卒業者の進路状況



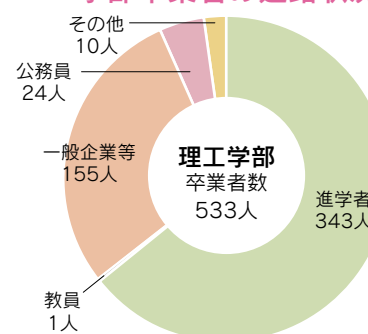
理工学部 (桐生地区)

理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。



授業風景

学部卒業者の進路状況



類	プログラム
物質・環境類	応用化学プログラム
	食品工学プログラム
	材料科学プログラム
	化学システム工学プログラム
	土木環境プログラム
電子・機械類	機械プログラム
	知能制御プログラム
	電子情報通信プログラム

教育学研究科（荒牧地区）

教育学研究科には、修業年限が2年の専門職学位課程（教職大学院）が置かれている。学部段階での教育を基礎にして、学校現場で実践的指導力を発揮できる（身につけた）教員を養成することを目的としている。

教職大学院の特徴としては、学部新卒者は附属学校など連携校で、現職教員は勤務校で、教科等の授業実践、カリキュラム開発や、校内研修、業務改善など学校運営にかかわる自身の実践を素材とした「課題研究」がある。

専門職学位課程

専攻	コース
教育実践高度化専攻	教職リーダー
	授業実践開発
	特別支援教育実践開発



課題研究報告会風景



授業風景



授業風景

社会情報学研究科（荒牧地区）

社会情報学の深化と発展を目指し、行政、企業、NPOなどの組織における意思決定に具体的に関与できる「高度専門職業人」の育成と、人間と情報社会の諸問題や各組織のあり方を考究できる「実践的研究者」の養成を目的としている。

メディア社会構想コースは、メディアを活用し（質の高い社会的コミュニケーションにより）、人々の価値観を統合して、望ましい新たな社会のあり方を構想できる人材を育成する。社会情報システムデザインコースは、社会から情報を獲得、分析、結果を報告する力を養うためのカリキュラムを提供することで、科学的に妥当な社会実験・シミュレーション・データの結果に基づいて、社会システムをデザインできる人材を育成する。

修士課程

専攻	コース
社会情報学専攻	メディア社会構想コース (メディア系、社会・組織系)
	社会情報システムデザインコース (社会モデリング系、社会実証系)



修士論文発表会

医学系研究科 (昭和地区)

科学的知 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) を探求し、それらの動的な融合から世界の医科学をリードする教育・研究・医療拠点を構築することを目標としている。先端的生命科学研究をさらに推進させ、疾病の病因究明と体系的治療戦略を実践する医学研究者を育成する。また高い倫理観と卓越した臨床研究能力を持つ医療人を育成するとともに研究成果の社会還元を促進していく。



授業風景

修士課程

専攻	
修士課程	生命医科学専攻

博士課程

専攻	領域	講座
博士課程 医科学専攻	基礎・基盤医学	機能形態学、生体構造学、分子細胞生物学、生化学、応用生理学、脳神経再生医学、薬理学、遺伝発達行動学、細菌学、生体防御学、公衆衛生学、法医学、医学哲学・倫理学、医学教育開発学
	臨床医学	【内科学講座】 循環器内科学、呼吸器・アレルギー内科学、消化器・肝臓内科学、内分泌代謝内科学、腎臓・リウマチ内科学、血液内科学、脳神経内科学 【総合外科学講座】 循環器外科学、呼吸器外科学、消化管外科学、乳腺・内分泌外科学、肝胆膵外科学、小児外科学 腫瘍放射線学、放射線診断核医学、神経精神医学、麻酔神経科学、救急医学、総合医療学、リハビリテーション医学、臨床検査医学、病態病理学、病理診断学、小児科学、産科婦人科学、泌尿器科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚科学、形成外科学、整形外科科学、臨床薬理学、口腔顎顔面外科学、医療の質・安全学
		【協力・連携講座】 ●医学部附属病院 臨床試験学、情報医療学 ●生体調節研究所 細胞構造、代謝エピソード、生体膜機能個体代謝生理学、遺伝生化学、分子糖代謝制御、代謝疾患医科学、粘膜エコシステム制御、ゲノム科学リソース、代謝シグナル解析 ●重粒子線医学研究センター 重粒子線医学、物理・生物学、重粒子線臨床医学 ●食健康科学教育研究センター 食健康科学 ●数理データ科学教育研究センター 数理データ科学 ●量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所 生体機能解析学

保健学研究科 (昭和地区)

保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質 (QOL) 向上のための独創的あるいは学際的な研究を進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につける。

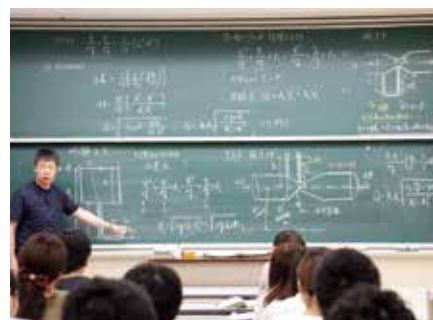
博士課程

専攻	ユニット又は領域
博士前期課程 (修士)	保健学専攻
博士後期課程 (博士)	
	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
	看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域

理工学府 (桐生地区)

現在大学が社会から求められている、多様化・複雑化が進化する産業活動における諸課題に対して俯瞰的なものの見方と、総合的実践力・独創力を発揮し、社会からのニーズに応えることのできる高度理工系専門人材を育成することを目的としている。

課程	専攻	プログラム又は領域
博士前期課程 (修士)	理工学専攻	物質・生命理工学教育プログラム 知能機械創製理工学教育プログラム 環境創生理工学教育プログラム 電子情報・数理教育プログラム
博士後期課程 (博士)	理工学専攻	物質・生命理工学領域 知能機械創製理工学領域 環境創生理工学領域 電子情報・数理領域



授業風景



授業風景



授業風景

特別支援教育特別専攻科 (荒牧地区)

特別支援教育特別専攻科は大学の学部での学修を基礎にして、特別支援教育に関する高度な専門的教育を行い、社会からのニーズに応えられる有能な職業人の養成を目指している課程で修業年限は1年である。

専攻	コース
重複障害教育専攻	一種免許状取得



授業風景

共同教育学部附属学校園（若宮・上沖地区）

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し、地域の教育の充実・発展に寄与すること及び、共同教育学部学生の教育実習を実施することを目的としている。幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校がある。

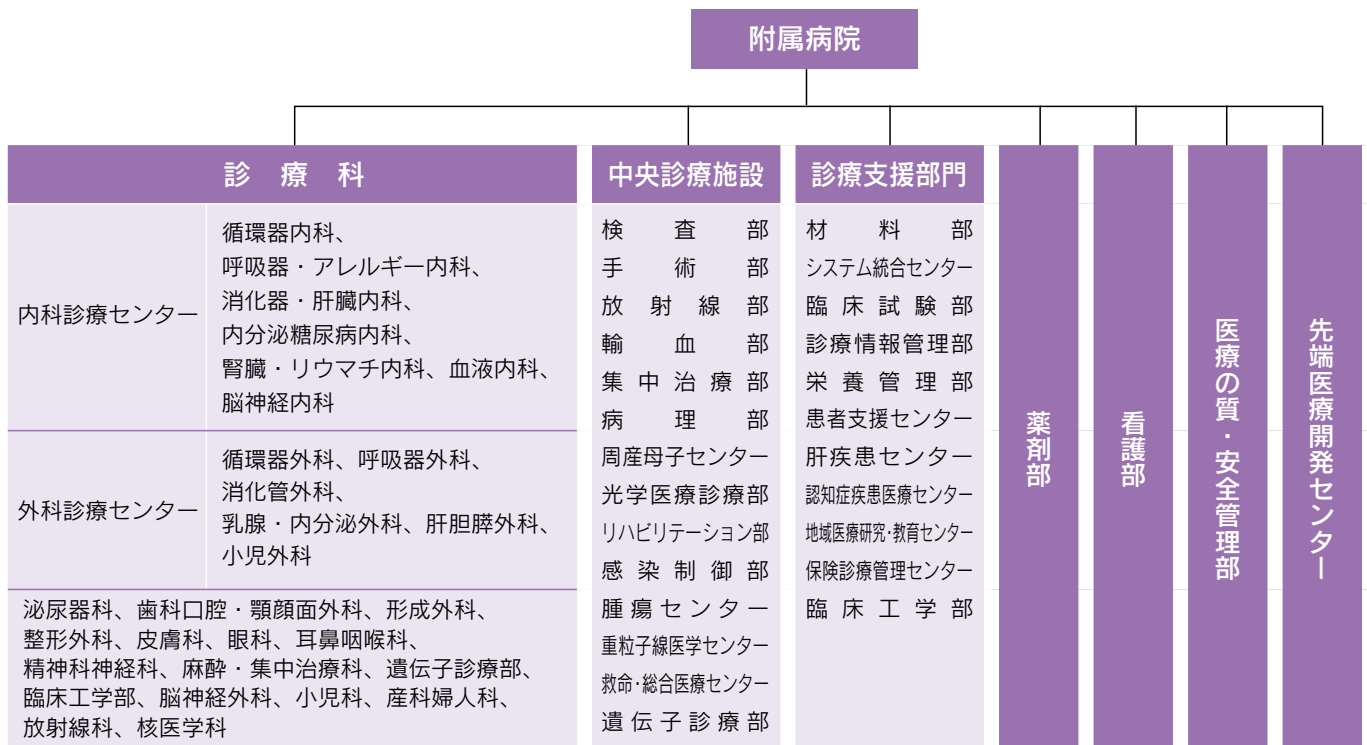


活動風景（附属幼稚園）

医学部附属病院（昭和地区）

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保険医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。



医学部附属病院



医学部附属病院 ロビー

生体調節研究所 (昭和地区)

生体調節研究所は1963年に設置された旧内分泌研究所から1994年の改組を経て誕生した国内唯一の「内分泌・代謝学」に関する基礎医学研究所であり、半世紀以上もの間、一貫して我が国における当該分野を先導する国際的研究拠点として活動してきた。この間、内分泌・代謝システムの研究を中心に、細胞レベルから動物個体に至るまで多様な研究材料を用いて生体の恒常性を司る分子機構の解明を目指すとともに、その破綻により引き起こされる疾患、特に糖尿病、脂質異常症、肥満症、がんなどといった近年社会問題化している生活習慣病に焦点をあてた研究を推進している。



生体調節研究所

研究部門

研究部門	分野
生体情報部門	細胞構造、代謝エビジェネティクス、生体膜機能、個体代謝生理学
病態制御部門	遺伝生化学、分子糖代謝制御、代謝疾患医科学、粘膜エコシステム制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	ゲノム科学リソース、疾患ゲノム研究
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、トランスレーショナルリサーチ
拠点研究支援センター	-



研究活動の様子 (細胞構造分野)

総合情報メディアセンター

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした学術情報の収集と情報発信並びにIT基盤の整備・運用を行っている。図書館部門は、資料の整備・提供に加えて、学生のための「学びの場」としてラーニングcommonsを設置するとともに、地域の「学びの場」として学外者へのサービスにも力を入れている。情報基盤部門は、CIO (情報化統括責任者) のもと情報化を進めるとともに、情報セキュリティインシデントへの対応を迅速かつ一元的に行うことを目的として全学の危機管理室に設置された「群馬大学CSIRT」と緊密に連携し、情報セキュリティの確保において重要な役割を果たしている。2022年に本センターに設置された群馬大学出版会は、本学又は本学の教職員が作成した教材著作物の利用許諾等、著作権の管理に関する事務を行っている。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館 (荒牧地区)、医学図書館 (昭和地区) 及び理工学図書館 (桐生地区) の3館が連携・協力しながら、図書の提供・保存のほか、電子的資料に対応するため、リポジトリの構築、電子ジャーナルや各種データベースの整備を行っている。

各館に整備したラーニングcommonsにおいて講演会や展示会を定期的に開催するとともに、地域交流のため中央図書館内のギャラリー利用を学外者にも開放している。

■蔵書数 (2022年5月1日現在) (単位: 冊)

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	272,703	69,769	83,005	425,477
洋書	55,517	58,704	66,396	180,617
計	328,220	128,473	149,401	606,094



中央図書館 (荒牧地区)

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は、全学の組織である群馬大学CSIRTと連携し、セキュリティが確保され安心して使いながら使いやすいIT環境の実現に努めている。

荒牧地区、昭和地区、桐生地区に職員を配置し、電子メールなどのITサービスの提供、学内LANの管理運用、授業や演習等に利用される教育用端末の整備とともに、利用者へのサポートを行っている。

事務情報部門は、GUNetを利用して事務情報ネットワークを整備し、情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進している。

■全学ソフトウェアライセンス (ソフトウェアの無償配布)

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減並びにソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結している。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができる。

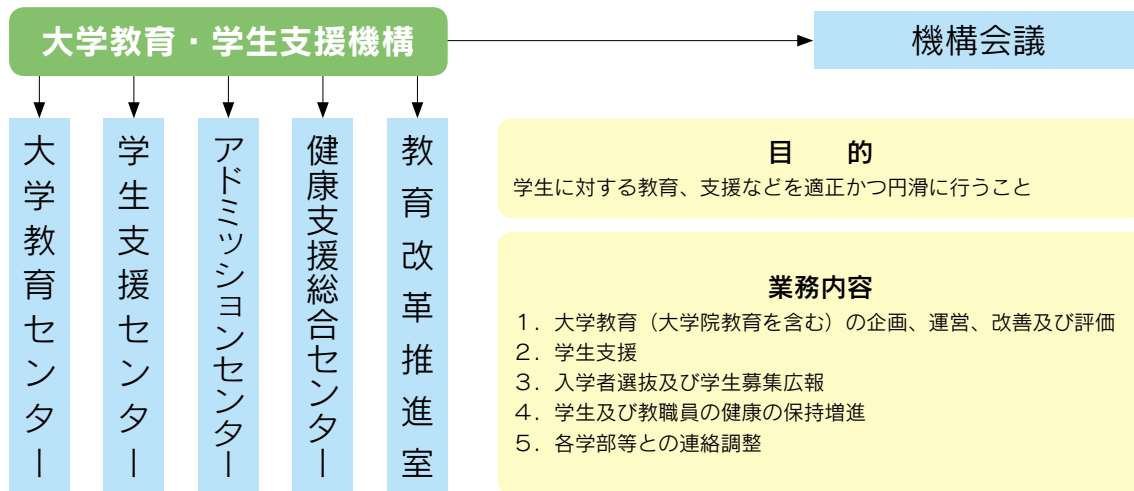
■群馬大学学術情報ネットワーク (GUNet)

教育研究に不可欠な情報ネットワーク環境として、全学的な認証ネットワークを提供している。認証ネットワークでは、学生・教職員に発行される全学認証アカウントを使って認証することにより、簡単かつ安全にネットワークを利用することができる。

※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供している。サービスの詳細については、ホームページを参照。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、大学教育センター、学生支援センター、アドミッションセンター、健康支援総合センター及び教育改革推進室からなる。



大学教育センター

目的

全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
2. 大学教育の運営及び評価

学生支援センター

目的

学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
4. 障害学生の修学支援

アドミッションセンター

目的

入学者選抜方法の企画及び立案、入学者選抜実施の総括、入学者選抜の改善に係る分析及び調査、入学者選抜に係る情報の適正な管理並びに高大連携及び学生募集広報の推進を図ること

業務内容

1. 入学者選抜方法の企画、立案及び改善に関する事。
2. 入学者選抜（大学入学共通テストを含む）実施に係る総括に関する事。
3. 入学者選抜の結果の分析及び評価に関する事。
4. 入学者選抜に係る調査及び研究に関する事。
5. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示に関する事。
6. 入学者選抜に係るリスクマネジメントに関する事。
7. 高大連携活動の企画、立案及び実施に関する事。
8. 学生募集広報活動の企画、立案及び実施に関する事。

健康支援総合センター

目的

学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断に係る指導助言
3. 身体的及び精神的（カウンセリングを含む）な健康相談
4. 応急措置
5. 健康に係る調査及び研究
6. 感染症の予防及び環境衛生に係る指導助言

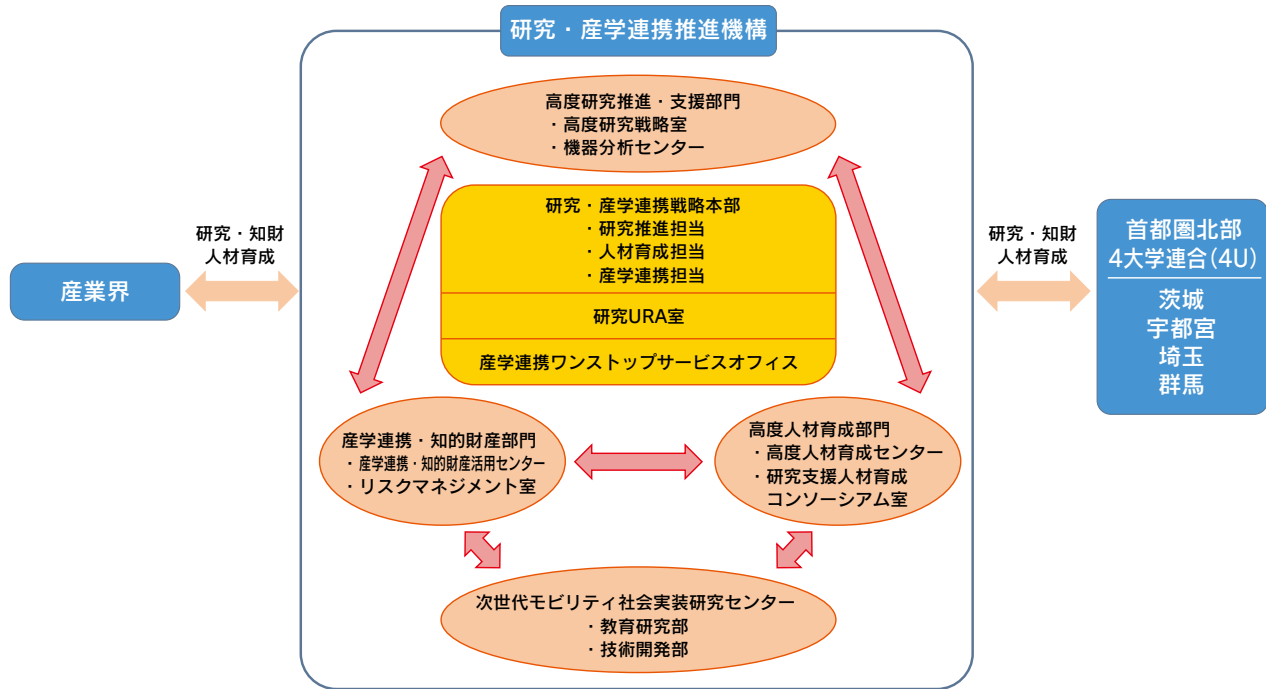
教育改革推進室

目的 大学教育全体の改革を推進していくこと

- 業務内容**
1. 教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案
 2. 地域と連携した教育に関する企画立案
 3. 社会ニーズを踏まえた教育プログラムの企画立案
 4. アクティブラーニングに関する企画立案

研究・産学連携推進機構

研究・産学連携推進機構は、研究・産学連携戦略本部、高度研究推進・支援部門、高度人材育成部門、産学連携・知的財産部門、次世代モビリティ社会実装研究センターから組織されており、大学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理・運用等を円滑に行い、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。



研究・産学連携戦略本部

◇研究URA室

- (1)研究活動等の調査・分析
- (2)科学技術・学術政策等の動向把握等
- (3)競争的資金等に係る情報収集・分析及び申請支援
- (4)プロジェクト研究推進の支援 (5)産学官連携推進の支援

◇産学連携ワンストップサービスオフィス

- (1)外部機関等からの相談窓口及び運営
- (2)外部機関等からの産学連携に係る依頼事項等の調整
- (3)外部機関等との技術移転活動の調整及び成果の検証
- (4)機構の産学連携組織間における産学連携活動の進捗等の情報共有

高度研究推進・支援部門

◇高度研究戦略室

- (1)研究戦略の策定 (2)先端研究の推進 (3)プロジェクト型研究の推進
- (4)競争的研究資金獲得のための企画立案
- (5)プロジェクトに係る研究設備マスタープランの策定

◇機器分析センター

- (1)機器の管理運用 (2)利用者に対する講習及び技術指導
- (3)分析、測定及び解析 (4)分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供
- (5)外部依頼分析、技術相談
- (6)共同利用に係る研究設備マスタープランの策定

高度人材育成部門

◇高度人材育成センター

- (1)ポストドクター (PD) 及び博士課程学生の実践的能力の開発
- (2)PDのインターンシップの実施
- (3)PD及び博士課程学生と企業等との交流及び連携
- (4)教職員のキャリアパスに係る意識啓発
- (5)PD及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築
- (6)創業者及び創業支援人材の育成

◇研究支援人材育成コンソーシアム室

- (1)コンソーシアムの事務局 (2)コンソーシアム事業の実施

産学連携・知的財産部門

◇産学連携・知的財産活用センター

- (1)民間機関等との共同研究及び受託研究
- (2)知的財産の創出、取得、管理及び技術移転 (3)知的財産情報の発信
- (4)大学発ベンチャー企業の創出及び支援
- (5)首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援
- (6)地域社会における学術研究の交流

◇リスクマネジメント室

- (1)利益相反に係る適切な管理
- (2)外国為替及び外国貿易法に基づく輸出管理に係る適切な管理
- (3)学内外の関係する機関等との連絡調整 (4)教職員等に対する啓発活動

次世代モビリティ社会実装研究センター

次世代自動車産業振興に資する産学官金連携イノベーションの拠点形成を目指し、次世代モビリティシステムの社会実装研究と開発及び高度人材育成を目的とする。

- (1)次世代モビリティの研究開発
- (2)次世代モビリティに係る学生及び社会人に対する人材育成

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

(群馬県及び大学の共同開催)

重粒子線医学研究センター

重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

また、附属病院重粒子線医学センターと協力しながら重粒子線治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を中心としたがん診療の実践により、地域社会に貢献する役割も担っている。

重粒子線医学推進機構

群馬重粒子線治療
運営委員会

重粒子線医学研究センター

物理学部門

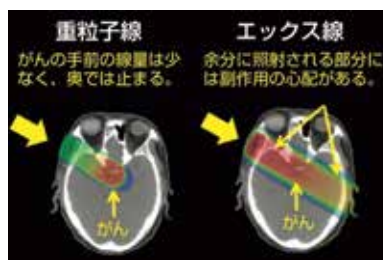
生物学部門

医学部門

運営委員会



重粒子線医学センター(重粒子線照射施設)



線量分布の比較(重粒子線とエックス線)

大学院医学系研究科

協力講座
重粒子線医学物理・
生物学分野
重粒子線臨床医学分野

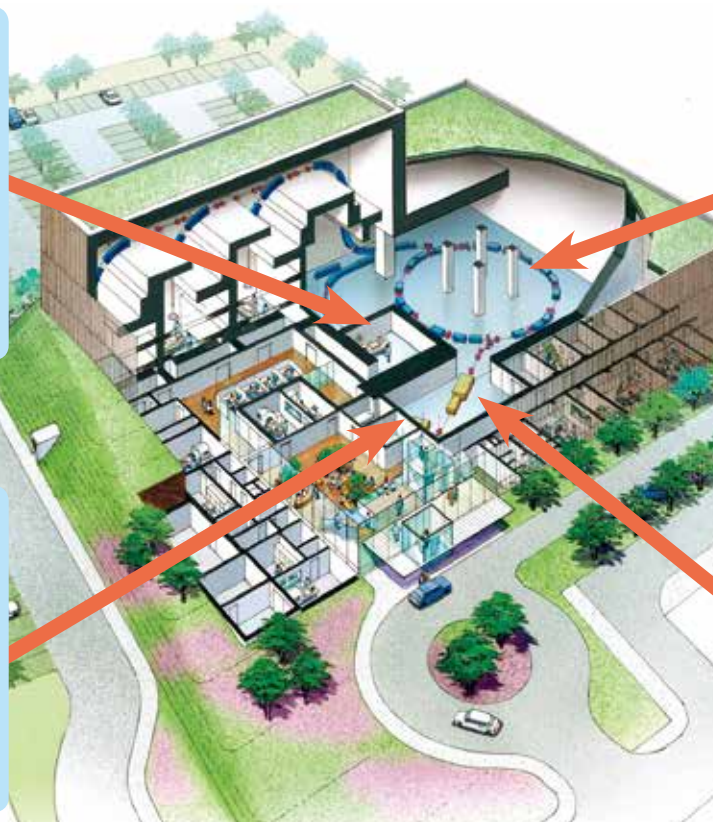
医学部附属病院

中央診療施設
重粒子線医学センター



治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。重粒子線照射中に痛みは感じない。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子(炭素イオン)を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された最新の装置であり、国際的な注目を集めている。

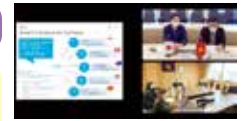
本学では、群馬県との共同事業として、2006年度にこの施設の建設に着手し、2010年3月に治療を開始し、同年6月から限局性固形がんに対する先進医療を開始した。設置後の運営においては、県内医療機関と連携して、施設を効果的に活用し、群馬医療圏に高度な統合的がん医療体制を構築し、重粒子線照射施設を全国の諸地域に配置する場合の施設活用のモデルとなることを目指している。

2016年4月から、重粒子線治療は切除非適応の骨軟部腫瘍(骨や筋肉、血管、皮下組織などの軟部に発生する腫瘍)、前立腺がん、頭頸部がんが順次保険適用となっている。

学内共同教育研究施設等

国際センター

国際センターは、大学の国際戦略の企画立案や、大学における教育・研究の国際化推進及び国際交流の支援を行うことを目的として、2017年5月に設置された。海外の大学等との協定締結、国際教育プログラムの企画・運営、外国人留学生及び海外留学の支援、日本語教育プログラムの実施など、群馬大学の国際化及びグローバル人材育成に寄与する多様な取組みを展開している。



ベトナムFPTコーポレーション (FUNIX) との協定締結の様子

数理データ科学教育研究センター

数理データ科学教育研究センターは、基盤支援に向けて、情報数理及びデータ科学を中心とした情報学分野の教育を展開するとともに、これらの素養を持った人材の育成及び研究の推進を図ることを目的として、2017年12月に設置された。

センター内の3つのユニット「情報数理ユニット」「データ科学ユニット」「レギュラトリーサイエンスユニット」が連携して教育研究に取り組むことで、社会のあらゆる分野において実践的に活躍するための数理的思考力を持った人材の育成、ICTを活用した教育手法の開発研究及びビッグデータを含む実データを用いた実践的な研究等を進める。



数理・データサイエンス教育に関するFDの様子

食健康科学教育研究センター

食健康科学教育研究センターは、「食と健康」に関わる研究の推進及び専門人材の育成により、大学の教育研究及び社会貢献活動等の向上に資するとともに、地方公共団体及び地方産業界等と連携して、地域産業の振興及び社会における健康増進に寄与することを目的として2017年12月に設置された。

本学は、医学系研究科、保健学研究科における食の安全安心に係る分析機能、生体調節研究所における生活習慣病の予防開発機能、理工学府における食品開発・先端加工・製造技術の研究開発機能、さらに共同教育学部や情報学部における食育、健康志向、ブランディングの研究開発機能等を有している。本センターが中心となり、これらの機能を活用して文理の広い分野における食と健康に係る教育研究及び地域貢献を行う。



国際シンポジウム講演の様子

未来先端研究機構

未来先端研究機構は、群馬大学の強みである統合腫瘍学（新規抗がん剤開発・オミックス解析によるがんの治療開発）や内分泌代謝・シグナル学（ゲノム機能・細胞内代謝等）、元素科学（炭素・ケイ素・フッ素の元素特性を活用したエネルギー開発）などの研究分野において世界水準の研究力を強化することを目的とし、先端的な研究組織として2014年4月に設置された。さらに、機構内にウイルスベクター開発研究センターを設置し、難病の遺伝子治療等を可能にするベクターツール研究・開発拠点として取組みを進めている。

グローバルレベルの研究展開を図るため、世界トップクラスの海外研究機関から研究者を招へいして海外ラボラトリーを設置し、国際共同研究を実施している。



海外ラボラトリーの研究の様子

ダイバーシティ推進センター

ダイバーシティ推進センターは、ジェンダー、障がい、国籍、性的指向・性自認、宗教、年齢、価値観などの多様性を尊重し、共に活躍することができるように、また、ダイバーシティ社会の実現に貢献することを目的として、男女共同参画推進室を改組し、2020年4月に設置された。

本学は、性の多様性に係る基本的考えや対応ガイドラインを策定しており、学生や教職員が安心して学び、働ける環境整備に力を入れている。また、ライフイベントと仕事や研究との両立を支援する制度や女性研究者の研究助成など各種制度を実施している。

共同研究拠点等

内分泌・代謝学共同研究拠点（生体調節研究所）

内分泌・代謝学および関連領域において、臨床医学研究者を含む研究者コミュニティから要請された共同研究を、研究材料や解析技術の供与によって推進する。そして、その成果発表、研究交流を通して、当該領域における研究者の育成に寄与する。



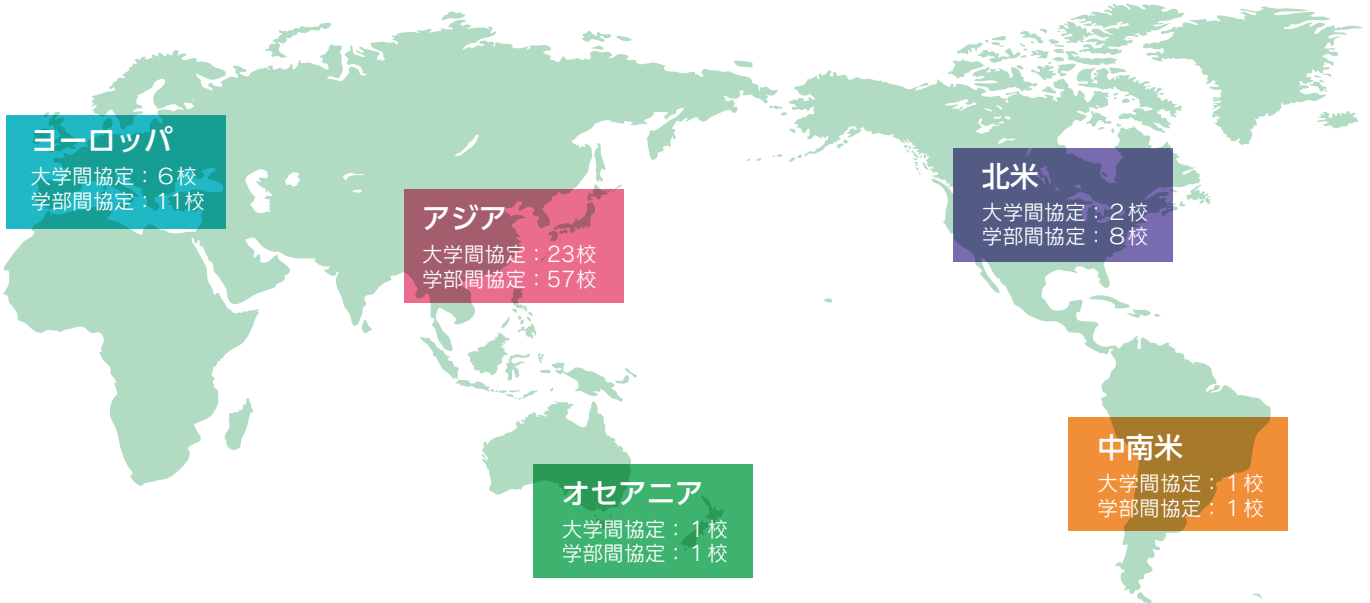
国際交流

群馬大学では、大学の教育・研究の国際化推進を目的として、世界各国・地域の大学等機関と大学間あるいは学部間の国際交流協定を締結している。

2017年5月に国際センター (GUIC: Gunma University International Center) を設立し、研究者及び学生の交流を推進している。

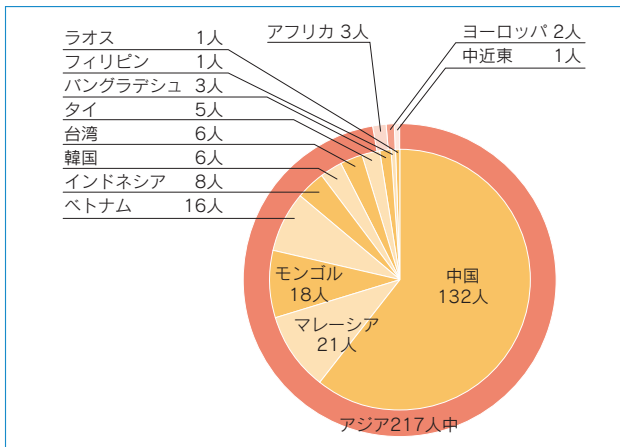
●大学間・学部間協定

2022年5月1日現在



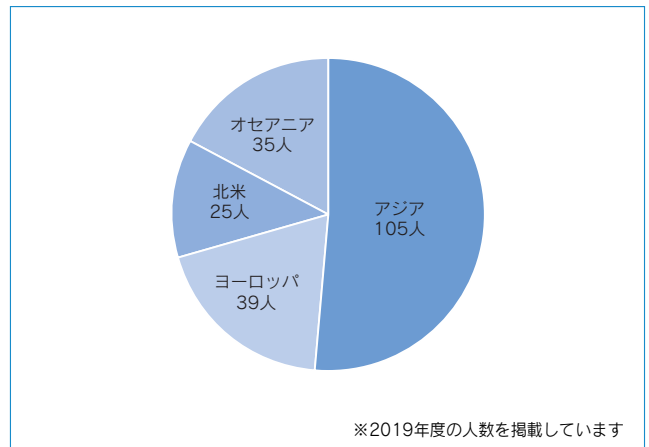
●地域別外国人留学生数

2022年5月1日現在

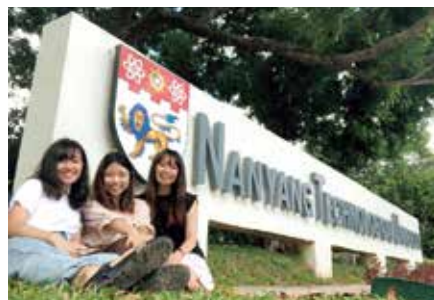


●地域別海外への学生派遣人数

2019年4月～2020年3月



文科省トビタテ！留学JAPAN
インドネシアで教育実習中の様子



大学間交流協定に基づく交換留学
シンガポール・南洋理工大学に派遣中の様子



海外短期研修（夏季）
イギリス・キール大学の研修に参加中の様子

■ 地域・社会との連携

教育や研究とともに社会貢献活動、特に地域貢献活動に力を入れている。コミュニティーの一員として、地域と共に歩む大学を目指して、各種公開講座や“群馬ちびっこ大学”などのイベント、また各教員や学部が実施するシンポジウムなどを通じて、県民の皆様、小中高生や大学生、教員、教育委員会や市町村などの自治体の皆様などを対象に、幅広い地域貢献活動を展開。これにより地域の皆様のニーズに応じて、本学の教育・研究活動の成果を社会に還元し、地域を発展させるため努力している。

● 公開講座・開放講座

本学がもつ教育・研究の成果を知識と技として広く社会に開放し、地域社会における教育文化の向上に資することを目的に、1988年度から実施。また、2004年度に国立大学が法人化されてからも、引き続き実施している。本年度も共同教育学部、情報学部、医学部及び理工学部の教員等が講師となり、多くの講座を開講し、オンライン講座でどこからでも受講することができる。



2021年度公開講座Bコース
『高校生サイエンスインストラクター
育成プログラム』



2021年度公開講座Aコース
『社会起業家特論』



2021年度公開講座Aコース
『手話で学ぶ手話講座—手話とろう文化—』

● こども体験教室「群馬ちびっこ大学」

専門的な学問をわかりやすく、とりわけ小学生にも理解できるように、また興味がわくように行っているのが「群馬ちびっこ大学」。子どもたちは、実体験を通じた学習機会が少なくなってきた。そこで体験的な学習を通じて、学問の面白さ、奥深さを実感することで、将来の日本や世界を担う人材の若い芽を育むことを目的として実施している。2021年度からオンデマンド配信を開始。



ちびっこ大学 タイトル



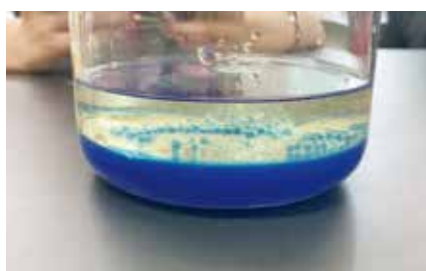
ちびっこ大学 夏休み化学料理教室



ちびっこ大学 紙スライレンをつくって実験



ちびっこ大学 真空実験！
ふくらむマシュマロアイス♪



ちびっこ大学 水と油で火山づくり



ちびっこ大学 博士

資料編

Contents

資料編

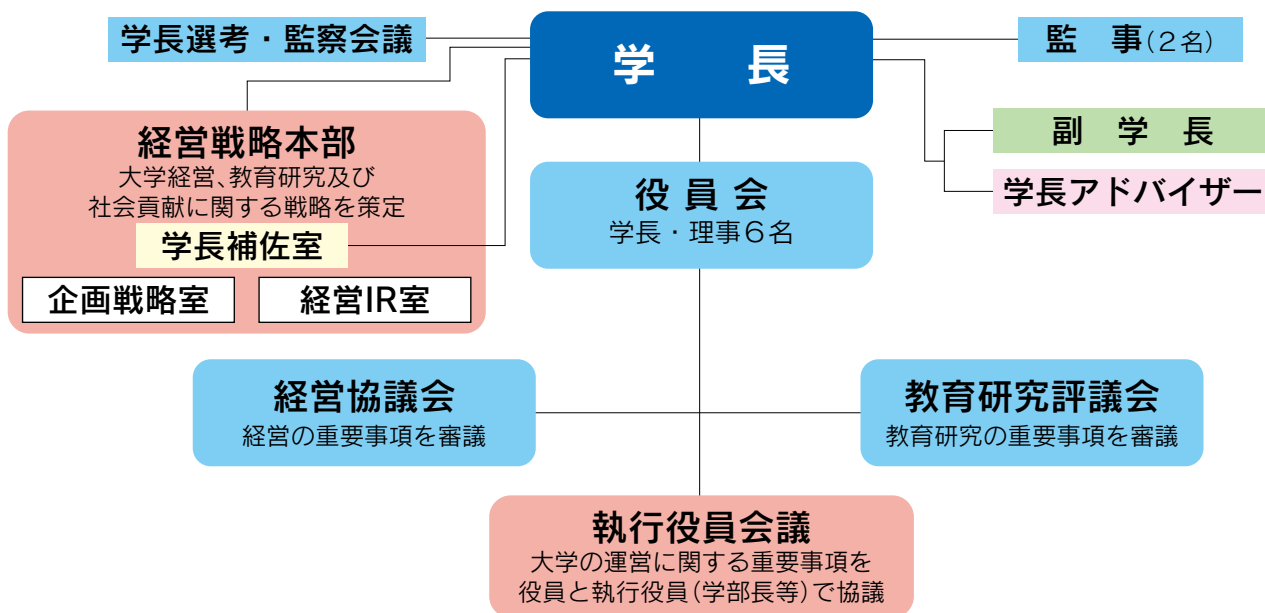
沿革	22 – 23
管理運営組織、学長の補佐体制、事務組織	24
教育・研究組織	25
役員及び主な役職者等	26 – 27
学生の数	28 – 29
入学志願状況等、学部入学者の出身地区別内訳	30
卒業・修了者数・学位授与者数	31
卒業後の状況	32
国際交流	33 – 35
附属施設	36
主な教育研究補助金採択状況	37
地域貢献事業一覧、公開講座、開放講座、収入・支出予算額	38 – 40
研究費等受入状況	41
土地・建物面積、学部等所在地分布図	42
学部等所在地	43
建物配置図（荒牧地区、昭和地区）	44
建物配置図（桐生地区、太田地区）	45
交通アクセス（荒牧、昭和、若宮、上沖地区）	46
交通アクセス（桐生、太田地区）	47
学生歌、大学徽章・ロゴマーク	48
群馬大学広報室、学年暦、認証評価認定マーク	49

沿革

和暦	西暦	内容
明治6年	1873	小学校教員伝習所創設
明治6年	1873	暢発学校設立
明治9年	1876	群馬師範学校設立
明治19年	1886	群馬尋常師範学校設立
明治31年	1898	群馬師範学校設立
明治34年	1901	群馬女子師範学校設立
明治45年	1912	群馬県第二師範学校設立
大正4年	1915	桐生高等染織学校設立
大正7年	1918	農業講習科設立
大正9年	1920	桐生高等工業学校設立
大正10年	1921	群馬県実業補習学校教員養成所設立
昭和10年	1935	群馬県立青年学校教員養成所設立
昭和18年	1943	群馬県師範学校男子部、女子部官立移管
昭和18年	1943	前橋医学専門学校設立
昭和19年	1944	桐生高等工業学校から桐生工業専門学校に改称
昭和19年	1944	群馬県立青年学校教員養成所から群馬青年師範学校に改称
昭和23年	1948	前橋医学専門学校から前橋医科大学に改称
昭和24年	1949	群馬師範学校、群馬青年師範学校、前橋医科大学、桐生工業専門学校の諸学校を包括し、学芸学部、医学部および工学部からなる群馬大学が開学。初代学長に西成甫就任
昭和24年	1949	医学部附属病院設置
昭和24年	1949	医学部附属看護婦養成施設設置
昭和24年	1949	附属図書館、学芸学部分館、医学部分館、工学部分館設置
昭和26年	1951	学芸学部附属小・中学校、幼稚園設置
昭和26年	1951	医学部附属看護婦養成施設を医学部附属看護学校に改称
昭和26年	1951	医学部附属内分泌研究施設設置
昭和27年	1952	附属病院草津分院設置
昭和28年	1953	工業短期大学部設置
昭和30年	1955	大学院医学研究科設置（現大学院医学系研究科）
昭和31年	1956	工学部附属繊維工業研究施設を設置
昭和38年	1963	内分泌研究所設置（現生体調節研究所）
昭和39年	1964	大学院工学研究科設置（現大学院理工学府）
昭和40年	1965	教養部設立
昭和40年	1965	学芸学部学芸専攻科設置
昭和40年	1965	医学部附属助産婦学校設立
昭和40年	1965	医学部附属行動医学研究施設設立
昭和41年	1966	学芸専攻科を教育学専攻科に改称
昭和41年	1966	学芸学部を教育学部に改組
昭和41年	1966	附属図書館学芸学部分館を教育学部分館に改称
昭和41年	1966	附属衛生検査技師学校設置
昭和42年	1967	教育学部分館を附属図書館に統合
昭和45年	1970	教育学部を荒牧キャンパスに移転
昭和47年	1972	医学部附属臨床検査技師学校設置
昭和47年	1972	内分泌研究所附属ホルモン測定センター設置
昭和48年	1973	医学部附属リハビリテーション医学研究施設設置
昭和48年	1973	医学部附属動物実験施設設置
昭和49年	1974	附属繊維工業研究施設を附属応用複合材料研究施設に改組
昭和51年	1976	特殊廃液処理施設設置
昭和52年	1977	保健管理センター設置
昭和52年	1977	医学部附属看護学校、附属助産婦学校、附属臨床検査技師学校を医療技術短期大学部に改組
昭和53年	1978	医学部附属薬剤耐性菌実験施設設置
昭和54年	1979	教育学部附属養護学校設置（現附属特別支援学校）
昭和56年	1981	教育学部附属教育実践研究指導センター設置（現附属学校教育臨床総合センター）
昭和59年	1984	情報処理センター設置
昭和63年	1988	地域共同研究センター設置
平成元年	1989	大学院工学研究科改組
平成2年	1990	大学院教育学研究科設置
平成5年	1993	社会情報学部設置
平成6年	1994	教育学部特殊教育特別専攻科設置
平成6年	1994	内分泌研究所を生体調節研究所に改組
平成6年	1994	附属ホルモン測定センターを附属生理活性物質センターに改組
平成6年	1994	附属図書館医学部分館を医学分館に改称
平成8年	1996	医学部保健学科設置
平成8年	1996	機器分析センター設立
平成8年	1996	サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー設置
平成9年	1997	遺伝子実験施設設置
平成10年	1998	大学院社会情報学研究科設置
平成11年	1999	情報処理センターを総合情報処理センターに改称
平成11年	1999	留学生センター設置（現国際センター）
平成13年	2001	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称
平成13年	2001	附属教育実践研究指導センターを附属学校教育臨床総合センターに改組

和暦	西暦	内容
平成15年	2003	大学院医学系研究科改組
平成15年	2003	医学部附属動物実験施設設置
平成15年	2003	医学部附属薬剤耐性菌実験施設設置
平成15年	2003	インキュベーション施設設置
平成16年	2004	国立大学法人化
平成16年	2004	生体調節研究所生体情報部門改組
平成16年	2004	生体調節研究所病態制御部門改組
平成16年	2004	生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンター統合
平成17年	2005	工学部分館、医学分館、附属図書館を総合情報メディアセンターに統合
平成17年	2005	重粒子線医学研究センター設置
平成18年	2006	大学教育・学生支援機構設置
平成18年	2006	産学連携・先端研究推進機構設置
平成19年	2007	太田キャンパス発足
平成19年	2007	研究・産学連携戦略推進機構設置
平成19年	2007	特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科に改組
平成19年	2007	大学院医学系研究科改組
平成19年	2007	総合情報メディアセンター図書館工学部分館を工学分館に改称
平成19年	2007	大学院工学研究科改組
平成19年	2007	教育学部附属養護学校を教育学部附属特別支援学校に改称
平成19年	2007	生体調節研究所附属代謝シグナル研究展開センター設置
平成20年	2008	大学院教育学研究科改組
平成20年	2008	教職大学院設置
平成20年	2008	ケイ素科学国際教育研究センター設置
平成20年	2008	社会情報学部附属社会情報学研究センター設置
平成20年	2008	留学生センターを国際教育・研究センターに改組
平成20年	2008	大学院教育学研究科改組
平成20年	2008	大学院工学研究科ケイ素科学国際教育研究センター設置
平成21年	2009	重粒子線医学推進機構設置
平成21年	2009	大学院医学系研究科附属教育研究支援センター設置
平成22年	2010	重粒子線治療開始
平成22年	2010	大学院医学系研究科附属医学教育センターを設置
平成22年	2010	先端科学研究指導者育成ユニット設置
平成22年	2010	大学院附属医学教育センター設置
平成23年	2011	大学院保健学研究科設置
平成23年	2011	大学院医学系研究科改組
平成23年	2011	大学院保健学研究科附属研究・教育センター設置
平成23年	2011	大学教育・学生支援機構改組
平成23年	2011	教育基盤センター、学生支援センター設置
平成23年	2011	生体調節研究所附属生体情報シグナル研究センター設置
平成24年	2012	多文化共生教育・研究プロジェクト推進室設置
平成25年	2013	工学部を理工学部へ改組
平成25年	2013	大学院工学研究科を大学院理工学府へ改組
平成25年	2013	多職種連携教育研究研修センター（WHO協力センター）設置
平成25年	2013	男女共同参画推進室設置
平成25年	2013	図書館工学部分館、医学分館を図書館部門へ改組
平成25年	2013	大学院工学研究科理工学研究院改組
平成25年	2013	理工学府附属ケイ素国際教育センター設置
平成26年	2014	未来先端研究機構設置
平成26年	2014	医学部附属動物実験施設を附属生物資源センターへ改称
平成27年	2015	理工学府附属元素科学国際教育研究センター設置
平成27年	2015	共同利用設備統括センター設置
平成27年	2015	テニユアトラック普及推進室改組
平成28年	2016	研究・産学連携推進機構設置
平成28年	2016	次世代モビリティ社会実装研究センター設置
平成28年	2016	社会情報学部附属社会情報学研究センターを社会情報学部附属社会情報学教育・研究センターへ改組
平成28年	2016	大学教育・学生支援機構教育基盤センターを大学教育センターへ改称
平成28年	2016	大学教育・学生支援機構に教育改革推進室を新設
平成29年	2017	国際センター設置
平成29年	2017	数理データ科学教育研究センター設置
平成29年	2017	食健康科学教育研究センター設置
平成29年	2017	研究・産学連携推進機構研究・産学連携戦略本部に産学連携ワンストップサービスオフィスを設置
平成31年	2019	未来先端研究機構改組
平成31年	2019	生体調節研究所附属拠点研究支援センター新設
令和元年	2019	ウイルスベクター開発研究センター設置
令和2年	2020	宇都宮大学と共同教育学部を設置
令和2年	2020	ダイバーシティ推進センター設置
令和2年	2020	大学院教育学研究科改組
令和2年	2020	教育学部附属教育臨床総合センターを共同教育学部附属教育実践センターへ改組
令和3年	2021	情報学部設置
令和3年	2021	理工学部改組
令和3年	2021	研究・産学連携推進機構研究・産学連携戦略本部に研究URA室を設置
令和4年	2022	大学教育・学生支援機構学生受入センターを大学教育・学生支援機構アドミッションセンターへ改組
令和4年	2022	総合情報メディアセンターに群馬大学出版会を設置

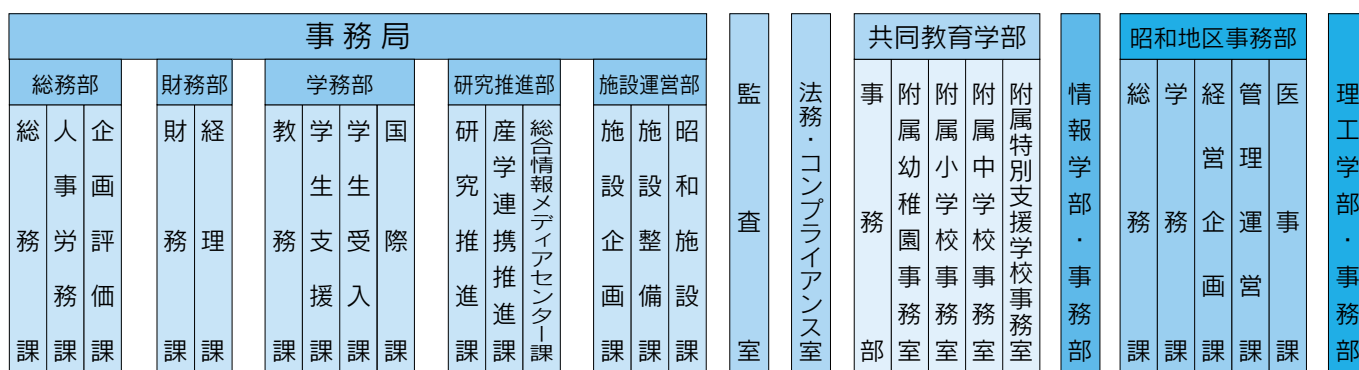
管理運営組織



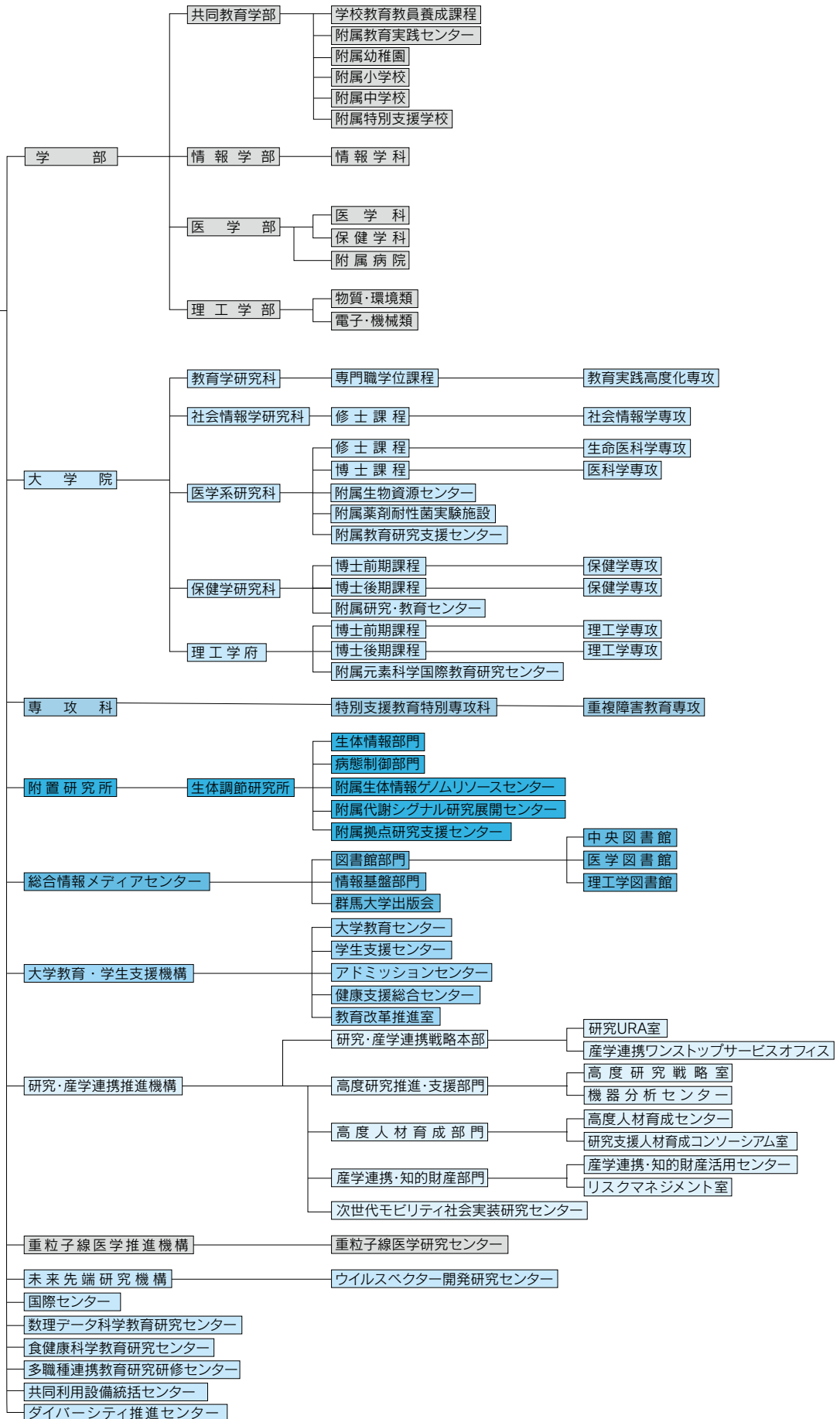
学長の補佐体制



事務組織



群馬大学
 学術研究院
 (平成26.4)
 教員組織の一元化



役員・執行役員・副学長・学長特別補佐・顧問

2022年5月1日現在

役員	
学長	石崎 泰樹
理事（教育・評価担当）	林 邦彦
理事（研究・企画担当）	花屋 実
理事（総務・財務担当）・事務局長	小坂 慎治
理事（病院担当）・附属病院長	齋藤 繁
理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	五十嵐 優子
理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	近藤 潤
監事	岡野 弘文
監事（非常勤）	丸山 和貴

執行役員	
学長	石崎 泰樹
理事（教育・評価担当）	林 邦彦
理事（研究・企画担当）	花屋 実
理事（総務・財務担当）・事務局長	小坂 慎治
理事（病院担当）	齋藤 繁
理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）	五十嵐 優子
理事（学長特命（産学連携）・非常勤）	近藤 潤
共同教育学部長	藤森 健太郎
情報学部長・社会情報学部長	高山 利弘
医学系研究科長・医学部長	小湊 慶彦
保健学研究科長	横山 知行
理工学府長・理工学部長	石間 経章
生体調節研究所長	佐藤 健
総合情報メディアセンター長	西村 淑子
国際センター長	田中 麻里

副学長	
理事（教育・評価担当）	林 邦彦
理事（研究・企画担当）	花屋 実
理事（総務・財務担当）・事務局長	小坂 慎治
IT・データサイエンス担当	浅尾 高行
アドミッション担当	板橋 英之
ダイバーシティ担当	嶋田 淳子
国際担当	田中 麻里

学長特別補佐	
数理データ科学教育研究センター長	浅尾 高行
食健康科学教育研究センター長	粕谷 健一
大学の機能強化（グローバル化、ブランディング）	越智 貴子
大学の機能強化（多職種連携）	大西 浩史
大学の機能強化（教学マネジメント）	栗原 淳一
大学の機能強化（ビッグデータ活用）	片山 佳代子
大学の機能強化（コアファシリティ、大学院改革）	南嶋 洋司
大学の機能強化（社会課題解決型研究支援）	弓 仲康史
大学の機能強化（創発的研究支援）	佐藤 美由紀

顧問（非常勤）	
元群馬大学長（第10代）	鈴木 守
元群馬大学長（第11代）	高田 邦昭
前群馬大学長（第12代）	平塚 浩士

学長選考・監察会議・経営協議会・教育研究評議会

学長選考・監察会議		
経営協議会	冲 永 寛 子	帝京平成大学学長
経営協議会	齋藤 一 雄	株式会社群馬銀行相談役
経営協議会	曾 我 孝 之	前橋商工会議所会頭
経営協議会	吉 武 博 通	情報・システム研究機構監事・筑波大学名誉教授
評議員	小湊 慶彦	医学系研究科長
評議員	石間 経章	理工学府長
評議員	高山 利弘	情報学部長
評議員	横山 知行	保健学研究科長

経営協議会		
1. 議長	石崎 泰樹	学長
2. 学外委員	内 山 充	株式会社上毛新聞社代表取締役社長
	冲 永 寛 子	帝京平成大学学長
	齋藤 一 雄	株式会社群馬銀行相談役
	曾 我 孝 之	前橋商工会議所会頭
	津久井 治 男	群馬県副知事
	登坂 正 一	太陽誘電株式会社代表取締役社長
	吉 武 博 通	情報・システム研究機構監事・筑波大学名誉教授
3. 学内委員	林 邦彦	理事（教育・評価担当）
	花屋 実	理事（研究・企画担当）
	小坂 慎治	理事（総務・財務担当）
	齋藤 繁	理事（病院担当）

教育研究評議会		
1. 議長	石崎 泰樹	学長
2. 評議員	林 邦彦	理事（教育・評価担当）
	花屋 実	理事（研究・企画担当）
	小坂 慎治	理事（総務・財務担当）・事務局長
	齋藤 繁	理事（病院担当）・附属病院長
	五十嵐 優子	理事（学長特命（男女共同参画・ダイバーシティ）・非常勤）
	近藤 潤	理事（学長特命（産学連携）・非常勤）
	田中 麻里	副学長（国際担当）
	藤森 健太郎	共同教育学部長
	高山 利弘	情報学部長
	小湊 慶彦	医学系研究科長
	横山 知行	保健学研究科長
	石間 経章	理工学府長
	佐藤 健	生体調節研究所長
	西村 淑子	総合情報メディアセンター長
	霜田 浩信	共同教育学部教授
	関 庸 一	情報学部教授
	小山 徹也	医学系研究科教授
	奥石 一郎	保健学研究科教授
	花泉 修	理工学府教授
	藤谷 与士夫	生体調節研究所教授

資料編

学部長等

2022年5月1日現在

共同教育学部		研究支援人材育成コンソーシアム室長	伊藤正実
学部長	藤田健太郎	産学連携・知的財産部門長	上原宏樹
事務長	森智弘	産学連携・知的財産活用センター長	藤原穂祐
附属教育実践センター長	相田英彰	リスクマネジメント室長	西村淑子
附属幼稚園長	日置由徳	次世代モビリティ社会実装研究センター長	太田直哉
附属小学校長	永渡孝子	重粒子線医学推進機構	
附属中学校長	上原孝次	機構長	花屋実
附属特別支援学校長	木山慶子	重粒子線医学研究センター長	大野達也
情報学部		未来先端研究機構	
学部長	高山利弘	機構長	花屋実
事務長	田中正実	国際センター	
医学部		センター長	田中麻里
学部長	小湊慶彦	数理データ科学教育研究センター	
大学院医学系研究科		センター長	浅尾高行
研究科長	小湊慶彦	食健康科学教育研究センター	
附属生物資源センター長	松崎利行	センター長	粕谷健一
附属薬剤耐性菌実験施設長	富田治芳	ダイバーシティ推進センター	
大学院保健学研究科		センター長	嶋田淳子
研究科長	横山知行	監査室 法務・コンプライアンス室	
医学部附属病院		監査室長	小林泰治
病院長	齋藤繁	法務・コンプライアンス室長	小林泰治
理工学部		事務局	
学部長	石間経章	事務局長・副学長	小坂慎治
事務長	飯塚秀司	総務部長	長谷川靖彦
大学院理工学府		総務課長	尾野浩康
学府長	石間経章	人事労務課長	鈴木伸一
生体調節研究所		企画評価課長（兼任）	坂本秀人
所長	佐藤健	財務部長	内藤秀武
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	平井宏和	財務課長	福中正彦
附属代謝シグナル研究展開センター長	北村忠弘	経理課長	中澤武道
附属拠点研究支援センター長	佐藤健	学務部長	笠井好之
総合情報メディアセンター		教務課長	姉崎英之
センター長（図書館長）	西村淑子	学生支援課長	須藤正義
大学教育・学生支援機構		学生受入課長	中野俊彦
機構長	林邦彦	国際課長	福島珠美
副機構長	渡辺秀司	研究推進部長	新大草
大学教育センター長	林邦彦	研究推進課長	大塚千文
学生支援センター長	林邦彦	産学連携推進課長	塚本幸生
アドミッションセンター長	板橋英之	総合情報メディアセンター課長	加藤博文
健康支援総合センター長	齋藤繁	施設運営部長	西外雅美
教育改革推進室長	林邦彦	施設企画課長	崎川雅宏
研究・産学連携推進機構		施設整備課長	古湯澤
機構長	花屋実	昭 and 施設課長	坂本秀
副機構長	花泉修	昭和地区事務部	
研究URA室長	花屋実	事務部長	高橋明
産学連携ワンストップサービスオフィス室長	花泉修	事務部次長	佐藤一彦
高度研究推進・支援部門長	藤谷与士夫	総務課長	茂木克之
高度研究戦略室長	藤谷与士夫	学務課長	阿部彰
機器分析センター長	浅川直紀	経営企画課長	宮路昌浩
高度人材育成部門長	花泉修	管理運営課長（兼任）	佐藤一彦
高度人材育成センター長	本島邦行	医事課長	岡本博幸

資料編

職員の数

2022年5月1日現在

区分	役員	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	養護教諭	事務職員	技術職員等	総計
共同教育学部		32	37	10	1		81	4	21	2	188
大学院教育学研究科		7	3								10
情報学部		22	24	1	6	2			10		65
医学部										13	13
大学院医学系研究科		41	32	23	52					3	151
大学院保健学研究科		27	16	6	23						72
医学部附属病院		1	10	37	151				2	1,044	1,245
理工学部									32	25	57
大学院理工学府		65	58		35					1	159
生体調節研究所		10	6	2	15					5	38
総合情報メディアセンター			1	1						4	6
大学教育・学生支援機構		3	6	3						2	14
研究・産学連携推進機構		1	3		1					5	10
重粒子線医学推進機構		2	2	1	14						19
未来先端研究機構		1	2	1	3						7
国際センター		1	2	2							5
数理データ科学教育研究センター		2	3	1	1						7
食健康科学教育研究センター		1		2	2						5
ダイバーシティ推進センター		1		1							2
事務局等	6								160	7	173
昭和地区事務部									149	10	159
総計	6	217	205	91	304	2	81	4	374	1,121	2,405

非常勤役員、育休、休職を除く
アドミッションコーディネータ、研究URAは技術職員等として計上

学部

2022年5月1日現在（人）

学部	学科等	入学定員	収容定員	現 員						総計
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
共同教育学部	学校教育教員養成課程	190	570	203	201	203				607
教育学部	学校教育教員養成課程	0	220				240			240
情報学部	情報学科	170	340	171	182					353
社会情報学部	社会情報学科	0	240			122	133			255
医学部	医学科	108	723	122	138	131	116	129	131	767
	保健学科	160	660	165	160	166	159			650
	計	268	1,383	287	298	297	275	129	131	1,417
理工学部	物質・環境類	285	570	304	279					583
	電子・機械類	185	370	197	195					392
	化学・生物化学科	0	335	3	9	190	171			373
	機械知能システム理工学科	0	230		13	121	126			260
	環境創生理工学科	0	195		8	102	91			201
	電子情報理工学科	0	290	2	1	170	133			306
	総合理工学科	0	60		2	30	29			61
	計	470	2,050	506	507	613	550			2,176
合計		1,098	4,803	1,167	1,188	1,235	1,198	129	131	5,048

大学院

2022年5月1日現在（人）

研究科等	専攻・プログラム等	入学定員	収容定員	現 員					
				1年次	2年次	3年次	4年次	総計	
教育学研究科	修士課程	教科教育実践専攻	0	0		1			1
	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	20	40	22	20			42
	計		20	40	22	21	0	0	43
社会情報学研究科	修士課程	社会情報学専攻	14	28	16	17			33
医学系研究科	修士課程	生命医科学専攻	15	30	11	9			20
	博士課程	医科学専攻	57	228	37	34	46	99	216
	計		72	258	48	43	46	99	236
保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	50	100	38	51			89
	博士後期課程	保健学専攻	10	30	11	8	26		45
	計		60	130	49	59	26	0	134
理工学府	博士前期課程	理工学専攻	300	600	349	342			691
	博士後期課程	理工学専攻	39	117	22	20	49		91
	計		339	717	371	362	49	0	782
合計		505	1,173	506	502	121	99	1,228	

専攻科

2022年5月1日現在（人）

研究科等	専攻・プログラム等	入学定員	収容定員	現 員					
				1年次	2年次	3年次	4年次	総計	
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	6					6
合計		15	15	6					6

入学志願状況 (2022年度)

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
共同教育学部	190	349 (5)	342 (2)	691 (7)	3.6	95	108	203
情報学部	170	414 (8)	187 (4)	601 (12)	3.5	115	56	171
医学部医学科	108	262	144 (1)	406 (1)	3.8	69	39	108
医学部保健学科	160	117	490	607	3.8	21	141	162
理工学部	470	901 (31) [1]	325 (9) [1]	1,226 (40) [2]	2.6	339 (3) [1]	144 [1]	483 (3) [2]
計	1,098	2,043 (44) [1]	1,488 (16) [1]	3,531 (60) [2]	3.2	639 (3) [1]	488 [1]	1,127 (3) [2]

注：() 内の数字は私費外国人留学生入試を表し、外数である。
[] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学 (2022年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	120	101	221	14.7	4	11	15

3年次編入学 (2022年度)

学部等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
社会情報学部	20	27	29	56	2.8	6	14	20
医学部保健学科	10	6	4	10	1.0	-	-	-
理工学部	30	88	16	104	3.5	32 (3)	6	38 (3)
計	60	121	49	170	2.8	38 (3)	20	58 (3)

注：() 内の数字は理工学部・ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入学者を表し、外数である。

2022年5月1日現在 (人)
※外国人留学生を除く

学部入学者の出身地区別内訳

北海道	15	関東	903	中部	120	近畿	12	四国	4	九州	9
東北	52	茨城県	27	新潟県	26	三重県	3	徳島県	1	福岡県	5
青森県	8	栃木県	88	富山県	13	滋賀県	-	香川県	-	佐賀県	-
岩手県	12	群馬県	541	石川県	3	京都府	1	愛媛県	3	長崎県	1
宮城県	9	埼玉県	141	福井県	2	大阪府	3	高知県	-	熊本県	1
秋田県	3	千葉県	23	山梨県	3	兵庫県	5	中国	8	大分県	-
山形県	6	東京都	51	長野県	34	奈良県	-	鳥取県	1	宮崎県	1
福島県	14	神奈川県	32	岐阜県	6	和歌山県	-	島根県	-	鹿児島県	1
				静岡県	26			岡山県	6	沖縄	3
				愛知県	7			広島県	-		
								山口県	1	その他	1

資料編

2021年度卒業・修了者数

学部	区分	学部	大 学 院									専攻科	合 計
			修士課程			博士課程			専門職学位課程				
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
教育学部		230							10	10	20	11	261
社会情報学部		123		3	3								126
医学部	医学科	108	5	1	6	33	16	49					163
	保健学科	155	16	22	38	5	4	9					202
理工学部	昼間コース	502	275	54	329	10	2	12					843
	フレックス	31											31
計		1,149	296	80	376	48	22	70	10	10	20	11	1,626

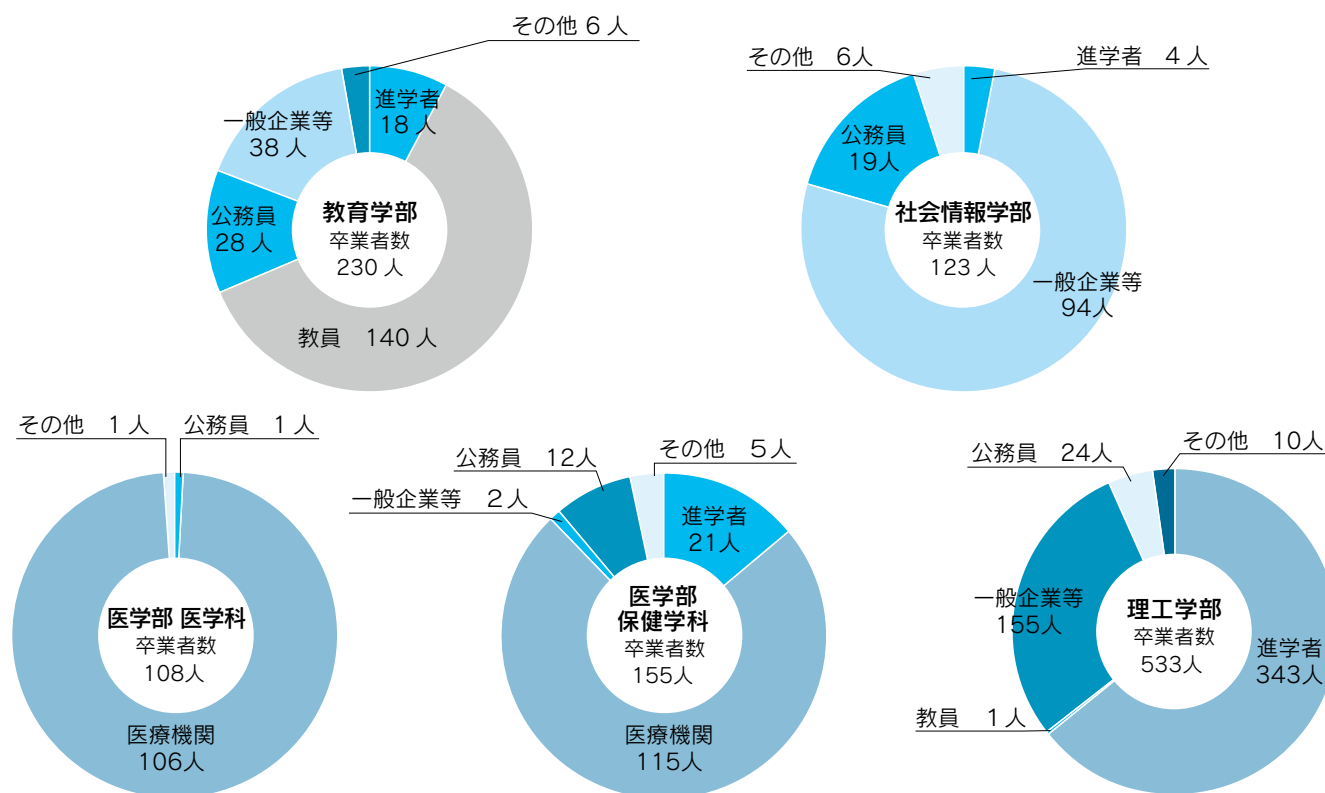
卒業・修了者数 (累計)

学部	区分	学部	大学院			専攻科	臨時教員養成課程	2年課程	合計
			修士	博士	専門職				
教育学部		18,001	1,060		203	453	235	1,419	21,371
社会情報学部		2,972	266						3,238
医学部		9,867	1,096	2,063	0	0	0	0	13,026
	(医学科)	6,110	142	1,904					8,156
	(保健学科)	3,757	954	159					4,870
理工学部		3,251	2,509	90					5,850
工学部		27,181	7,367	516		47			35,111
計		61,272	12,298	2,669	203	500	235	1,419	78,596
医療技術短期大学部		2,647				340			2,987
工業短期大学部		4,886							4,886

学位授与者数 (累計)

種類	計
博士 (医学)	3,316
課程修了	1,904
論文提出	1,412
博士 (保健学)	166
課程修了	151
論文提出	15
博士 (看護学)	8
課程修了	8
論文提出	0
博士 (理工学)	120
課程修了	90
論文提出	30
博士 (工学)	643
課程修了	516
論文提出	127
修士 (教育学)	1,060
修士 (社会情報学)	266
修士 (生命医科学)	142
修士 (保健学)	893
修士 (看護学)	61
修士 (理工学)	2,509
修士 (工学)	7,367
教職修士 (専門職)	203

学部卒業者の進路状況（2021年度 ※9月卒業者を含む）



大学院修了者の進路状況（2021年度 ※年度内修了者を含む）

研究科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						その他	
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等		計
教育学部	専門職学位課程	20	2	17			1			18	
社会情報学部	修士課程	3				2				2	1
医学系	修士課程	6	2		3	1				4	
	博士課程	49	1	2	45			1		48	
保健学部	博士前期課程	38	6	1	18	9	2			30	2
	博士後期課程	9		7	2					9	
理工学府	博士前期課程	329	8			305	7			312	9
	博士後期課程	12				8	1			9	3
計		466	19	27	68	325	11	1	0	432	15

専攻科修了者の進路状況（2021年度）

専攻科	区分	修了者数	進学者数	就職者数						その他	
				教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	その他法人等		計
特別支援教育特別専攻科		11		10			1			11	

資料編

〔国費〕… 文部科学省国費外国人留学生

〔私費〕… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及びJASSOの留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

国・地域別外国人留学生

2022年5月1日現在（人）

地域・国名	区分	学部学生		大学院学生				研究生				特別聴講学生				特別研究学生		計		合計
		国費	私費	修士課程		博士課程		学部		大学院		学部		大学院		大学院		国費	私費	
				国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費			
アジア (10か国 1地域)	中国		18		60	1	34		17					2				1	131	132
	マレーシア		20					1										1	20	21
	モンゴル		2		3		12	1										1	17	18
	ベトナム		6		6	1	2					1						2	14	16
	インドネシア				3	2	1					2						4	4	8
	台湾		1		1		2						2						6	6
	韓国		5				1												6	6
	タイ						5												5	5
	バングラデシュ					2				1									3	3
	フィリピン		1																1	1
ラオス				1														1	1	
	小計		53	1	75	4	57	2	18			3	4				10	207	217	
アフリカ (2か国)	エジプト				1	1												1	1	2
	ナイジェリア					1												1	1	1
	小計				1	2												2	1	3
中近東 (1か国)	イラン				1														1	1
	小計				1														1	1
ヨーロッパ (2か国)	アゼルバイジャン											1						1		1
	ハンガリー											1						1		1
	小計											2						2		2
合計 (15か国 1地域)			53	1	77	6	57	2	18			5	4				14	209	223	
	学部合計		53																	
	大学院合計				141															
	研究生合計							20												
	交換留学生など合計													9						

学部・研究科等外国人留学生

区分	学部学生		大学院学生				研究生				特別聴講学生				特別研究学生		計		合計
	国費	私費	修士課程		博士課程		学部		大学院		学部		大学院		大学院		国費	私費	
			国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費			
教育学											2	3					2	3	5
情報学		4		15				7			3	1					3	27	30
医学		1		6	5	19											5	26	31
保健学				3	3		1										1	6	7
理工学		48	1	53	1	35	1	11									3	147	150
生体調節研究所																			
合計		53	1	77	6	57	2	18			5	4					14	209	223

学生の海外派遣数

(2019年4月～2020年3月派遣)

地域	留学・派遣先 国名	教育学部	教育学 研究科	社会 情報学部	社会情報学 研究科	医学部 医学科	医学系 研究科	医学部 保健学科	保健学 研究科	理工学部	理工学府	特別支援教育 特別専攻科	合計
アジア (10か国 1地域)	韓国	33						5				3	41
	ベトナム	3		2		4		2		7	2		20
	マレーシア									11			11
	インドネシア	4				4							8
	モンゴル							7	1				8
	シンガポール	2		1							1		4
	タイ										4		4
	中国									1	2		3
	ミャンマー	3											3
	台湾			2									2
オセアニア (2か国)	インド									1			1
	オーストラリア ニュージーランド	6		5		3		3		17			34
北米 (1か国)											1		1
	アメリカ	5		5		1		5		9			25
ヨーロッパ (8か国)	イギリス	1		6	1	1		1		14			24
	ドイツ	1						1		2	2		6
	フランス									1	2		3
	スロベニア	1		1									2
	オランダ					1							1
	クロアチア										1		1
	ジョージア										1		1
スイス									1			1	
総計		59		22	1	14		24	1	64	16	3	204

※2019年度の人数を掲載しています

国際交流協定

2022年5月1日現在

国・地域	大学名	協定締結(更新)日	備考
アジア			
中華人民共和国	西安交通大学	2021.4.12	大学間協定
	廈門大学	2020.4.29	〃
	沈阳化工大学	2020.1.29	〃
	大連医科大学	2010.1.4	〃
	大連理工大学	2012.1.3	〃
	大連工業大学	2020.1.29	〃
	中国科学院過程工程研究所	2019.2.27	〃
	重慶交通大学	2009.3.25	〃
	内蒙古大学生命科学学院	2019.2.28	学部間協定
	中国鉱業大学	2009.1.23	〃
	西南交通大学機械工学部	2009.7.1	〃
	河北工業大学	2015.8.22	〃
	揚州大学水力・エネルギー・動力工程学院	2017.5.15	〃
	廈門理工學院光電通信工程学院	2020.8.31	〃
	天津大学	2014.11.7	〃
	湖南大学生物学院	2019.3.11	〃
	中日友好病院	2022.2.8	〃
	首都医科大学附属北京同仁医院	2019.3.18	〃
	江蘇科技大学	2016.10.17	〃
	中国科学院都市環境研究所	2017.3.23	〃
	復旦大学	2017.4.10	〃
浙江工業大学	2017.5.10	〃	
山東大学化学与化工学院	2017.5.23	〃	
北京協和医学院	2018.12.30	〃	
大韓民国	嶺南大学校	2020.2.1	大学間協定
	釜山大学校	2016.6.22	〃
	建国大学校	2019.10.9	〃
	ソウル大学校	2008.10.27	〃
	韓国原子力医学院KIRAMS	2020.4.20	学部間協定
	ソウル科学技術大学校産業大学院	2015.5.1	〃
	慶熙大学校工科大学	2021.1.5	〃
	忠南大学校	2020.8.11	〃
	仁濟大学校	2019.3.28	〃
	大邱大学	2016.3.29	〃
	ソウル国立大学病院	2021.6.11	〃
	KAIST 情報技術統合研究所	2018.12.13	〃
	大邱カトリック大学校医学部	2020.3.27	〃
延世大学校延世がん病院	2020.9.25	〃	
台湾	東海大学	2020.2.12	大学間協定
	国立台北教育大学	2018.2.5	〃
	国立虎尾科技大学	2013.1.21	〃
	義守大学医学部	2014.5.27	学部間協定
	国立勤益科技大学	2015.4.30	〃
	世新大学	2020.12.14	〃
	国立交通大学工学部	2018.1.2	〃
	国立中央大学工学部・理学部	2018.1.8	〃
フィリピン	フィリピン大学マニラ校	2019.1.8	大学間協定
モンゴル	モンゴル国立医科学大学	2021.7.5	〃
インド	ヒンドスタン大学	2018.6.5	学部間協定
	チトカラ大学	2018.6.6	〃
	タタメモリアルセンター	2021.9.9	〃
マレーシア	マラ技術大学	2015.6.5	大学間協定
	マレーシア国立大学	2020.5.28	学部間協定
	パハン大学	2014.9.9	〃
	マレーシアマラッカ技術大学電子情報工学部	2018.9.22	〃
ベトナム	ハノイ工科大学機械工学部&ツィニングプログラム	2008.1.23	〃
	ハノイ教育大学	2017.2.8	〃
	FPT 大学	2019.8.1	〃
インドネシア	バジャジャラン大学	1996.9.20	大学間協定
	インドネシア教育大学	2018.4.18	〃
	バンドン工科大学数理・自然科学部	2018.10.1	学部間協定
	ジャカルタ州立大学	2016.7.13	〃
	スマトラ工科大学	2017.5.12	〃
	スリウィジャヤ大学	2019.12.26	〃
シンガポール	イスラム サルタン アグング大学	2020.11.17	〃
	南洋理工大學	2015.3.20	大学間協定
バングラデシュ	ダッフオティル国際大学理工学部	2017.2.8	学部間協定
	ダッフオティル国際大学科学情報技術学部	2017.2.8	〃

国・地域	大学名	協定締結(更新)日	備考
タイ	チェンマイ大学	2017.10.30	大学間協定
	泰日工業大学	2017.11.30	〃
	モンクット王ラカバン工科大学	2008.12.12	学部間協定
	ラジャマンガラ工科大学産業工学部	2017.5.12	〃
	マヒドン大学理学部	2017.1.24	〃
	チュラロンコン大学工学部	2012.12.4	〃
	モンクット王トンブリ工科大学	2015.5.14	〃
	ランシット大学	2018.12.6	〃
	ラジャマンガラ工科大学工学部	2017.5.12	〃
	ラジャマンガラ工科大学天然資源学部	2017.5.12	〃
ラジャマンガラ工科大学農工学部	2017.5.12	〃	
ラジャマンガラ工科大学理文学部	2017.5.12	〃	
ヨーロッパ			
ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	2010.3.17	学部間協定
スロベニア	リュブリャナ大学	2008.9.19	大学間協定
ドイツ	ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター	2020.3.27	学部間協定
	ハイテルベルグ大学ハイテルベルグ粒子線治療センター	2018.7.26	〃
フランス	地中海大学(マルセイユ大学Ⅱ)	2005.7.25	大学間協定
	モンペリエ国立高等化学大学院	2017.1.20	学部間協定
	高等科学技術学院(IPSA)	2016.4.20	〃
	ESIEE パリ	2017.4.12	〃
	モンペリエ大学/フランス国立保健医学研究機構/モンペリエがん研究センター/モンペリエがん研究所	2017.4.10	〃
イタリア	フィレンツェ大学	2015.3.27	大学間協定
アゼルバイジャン	バクー国立大学	2019.10.30	〃
ポーランド	ヤギェウォ大学	2012.3.29	学部間協定
チェコ共和国	オストラバ工科大学	2020.10.20	大学間協定
オーストリア	ウィーン医科大学放射線治療教室	2014.4.14	学部間協定
クロアチア	ザグレブ大学人文社会学部	2014.7.3	〃
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学	2018.10.22	大学間協定
	ヴィリニウス大学	2019.4.3	学部間協定
北米			
アメリカ合衆国	サンディエゴ州立大学	2016.8.22	大学間協定
	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	2013.7.12	〃
	ワシントン大学(医学部)	2002.4.2	学部間協定
	マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr陽子線治療センター/放射線腫瘍学科	2018.6.28	〃
	d/b/a メイヨクリニック メイヨクリニックロチェスター放射線腫瘍学科	2008.10.23	〃
	ピュージェット・サウンド大学大学院	2017.10.17	〃
	ミズーリ州立大学	2020.2.18	〃
	モアヘッド州立大学	2021.4.27	〃
	フォートルイス大学	2018.4.26	〃
	アダムス州立大学	2019.2.18	〃
中南米			
ニカラグア	ニカラグア国立自治大学マナグア校	2017.1.13	大学間協定
コロンビア	サバナ大学	2007.6.25	学部間協定
オセアニア			
オーストラリア	ウーロンゴン大学	2021.7.9	大学間協定
ニュージーランド	オタゴ大学	2017.11.10	学部間協定

共同教育学部附属学校園

2022年5月1日現在

区 分		総定員	現 員						計	
			1年生/ 3歳児	2年生/ 4歳児	3年生/ 5歳児	4年生	5年生	6年生		
共同教育学部	附属幼稚園	140	28	46	48	/	/	/	122	
	附属小学校	630	102	100	99	101	96	101	599	
	附属中学校	420	136	134	136	/	/	/	406	
	附属特別 支援学校	小学部	18	3	3	3	3	3	3	18
		中学部	18	4	6	6	/	/	/	16
		高等部	24	6	5	4	/	/	/	15
計		1,250	279	294	296	104	99	104	1,176	

医学部附属病院診療科及び患者数

診療科	区 分	2021年度患者数（人）	
		入院患者	外来患者
内 科 系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科	46,888	119,098
外 科 系	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、形成外科	62,495	99,065
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科	34,679	121,732
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔・集中治療科、脳神経外科	26,365	27,248
小 児・女 性 系	小児科、小児外科、産科婦人科	22,368	38,680
放 射 線 系	放射線科、核医学科	5,725	33,849
計		198,520	439,672

※病床数：731床（2022年5月1日現在）
（診療科名は2022年度のもの）

主な教育研究補助金採択状況

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内 容
卓越研究員事業		理工学府 食健康科学教育 研究センター	2016年度～ 2022年度	国に認定された卓越研究員が、若手研究責任者として研究テーマを自ら設定し研究を遂行できるような自立的な研究環境のもと、新たな研究領域に挑戦し、独創的な成果を生み出す。
ダイバーシティ研究 環境実現イニシアティブ【特色型】		ダイバーシティ 推進センター	2017年度～ 2022年度	女子学生や女性研究者への支援体制を途切れることなく継続し、優秀な女性研究者の獲得と上位職増加への取組み、学内外のネットワークの構築とイノベーションの創出、魅力ある研究環境整備と継続させるための好循環の構築を目指す。
次世代研究者挑戦的 研究プログラム助成 事業	グンマ創発的博士人材 インダクションプログラム	研究・産学連携 推進機構	2021年度～ 2026年度	博士課程進学における多様な不安を取り除き、「博士号」の価値を啓発して将来への自信と期待を持たせていくための環境を整備し、社会適応性をもつための実践力を磨く多様な教育コンテンツにより、アカデミアだけでなく、産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を育成する。

地域貢献事業一覧 (2021年度)

No	事業名	学部等	学科等	担当	事業内容
1	小学生のための多言語(やさしい日・英・葡語)電子紙芝居教材の開発	共同教育学部	英語教育講座 美術教育講座	渡部 孝子 齋江 貴志	市販されている絵本は母語話者の子どもを読み手対象に書かれているため、外国語として言語を学んでいる子どもたちには理解が難しいものが多い。小学生を対象として多言語(やさしい日本語、やさしい英語、やさしいポルトガル語)電子紙芝居教材の開発を行い、群馬県内外の外国につながる子供たちの日本語教育、そして小学生の英語教育に活用可能な教材を開発し県内に配信していく。
2	前橋市での学生の余暇の過ごし方と観光資源のマッチング・プロジェクト	情報学部		小竹 裕人	前橋市観光政策課と協働し、群大生の余暇の過ごし方およびその情報収集の仕方・入手先、についてアンケート調査を実施し、ニーズがありながらマッチングできていない市内観光資源を探り当て、周知が不十分な資源は市と協働しドローンによる撮影・VLOG等を駆使し動画として発信を行う。観光資源と学生のニーズに若干のギャップがあるのなら適合する方策を提案する。
3	群馬県小児内分泌代謝疾患対策推進会議の設立と活用(小児内分泌代謝疾患の啓蒙と病診連携確立による子どもの健康増進)	医学系研究科	小児科学	大津 義晃 大澤 好充 島田 正晴 濱嶋 恵美 和田 綾	1型糖尿病や副腎不全などの内分泌代謝疾患は、治療や医療ケアの中断により数時間で重篤になる。症状の表出が難しい小児では、教育機関や地域の人々の介入を要する事もあるが、その啓蒙は不十分である。また、感染症蔓延などで一病院が機能低下した際、他病院で治療を継続できる診療協力体制も不十分である。よって、本会議を設立し、市民や教育関係者向けの講演で社会への啓蒙を行い、医師会に病診連携体制への協力を要請する。
4	群馬県の自然環境を生かした健康増進メディア講習会	医学系研究科 附属病院	麻酔神経科学分野 集中治療部	齋藤 繁 高澤 知規	面積の2/3が山間地域である群馬県では、自然環境を生かした各種の健康増進活動が可能である。2019年末からの新型コロナウイルス感染症流行状況の中では、三密を避けた運動習慣の啓発がなされてきたが、群馬県内での近郊登山はその目的に極めて合致している。また、坂道を歩くことで、呼吸機能を改善し、感染症に強い体を作ることは、超高齢化社会を迎えている本邦の健康増進法としても適切と考えられる。本事業では呼吸管理に関して豊富な実績を持つ本学2部署が共同で県民への健康管理法指導を行う。
5	ユース世代のこころの健康社会に向けた県内ネットワークの推進	医学系研究科	神経精神医学	福田 正人	ユース世代の最大の健康問題がメンタルヘルスであることにもとづいて、一昨年度と昨年度に作成した①「SOS発信・お助けLINEスタンプ」の作成、②冊子『どこからはじめる?ユース世代のこころの健康』、③冊子『これから、自分の人生どうなるの? コロナ禍で不安になった君へ。思ってもいなかった生き方にたどり着いた15人のお話』の取組みを進展させ、人間関係のあり方や社会の仕組みが以前とは様変わりするウィズ・コロナ時代となる未来の群馬県を担うことになるユースの支援に貢献する。
6	学生保健サポーターによる地域ボランティア体制の構築	保健学研究科		佐藤 由美 牛久保美津子 齋藤 貴之 石川 麻衣 松本 竹久 山上 徹也 田中 浩二 十枝はるか 松井 理恵 堀田かおり 鬼塚 陽子	我々は、全専攻全学年を対象に教育と地域貢献とを一体化した「学生保健サポーター養成」と「群大保健学まちなか交流サロン」の実績を有する。これを拡大・発展させ、新たに地域機関と協働した学生保健サポーターによるボランティア体制を構築する。前橋市社会福祉協議会等と協働で、子どもとその保護者、高齢者等幅広い地域住民を対象に、コロナ禍でも実現できる「オンライン」支援等、学生主体の活動を実施する。その積み重ねから、自律した学生ボランティア体制の構築を目指す。
7	ゲノム医療に向けた群馬県遺伝子診療体制の構築(群馬県ゲノム医療対策会議の設立と活用)	保健学研究科 医学系研究科 医学部附属病院	基礎看護学 母子看護学 内分泌代謝内科学 産科婦人科学 腫瘍センター	小澤 厚志 篠崎 博光 大崎 綾 山田 正信 日下田大輔 塚本 憲史	近年、遺伝性疾患や遺伝子異常に起因する疾病に対応するゲノム医療の需要が増加している。群馬県民やかかりつけ医に遺伝性疾患を啓蒙し、群馬県民の健康増進に貢献する。群馬大学遺伝子診療部と、新たに開設されたがんゲノム医療センターが中心となって、群馬県ゲノム医療対策会議のメンバーを選定、定例会議を開催し、さらに市民公開講座の開催、県医師会との連携にて病診連携体制の構築に向けた啓蒙活動を行う。昨年度はコロナ禍のため活動が制限された。
8	高校生のための最先端生命科学&重粒子線医学セミナー	生体調節研究所 重粒子線医学研究センター		佐々木伸雄 大野 達也	本事業は本学の最先端の生命科学を担っている生体調節研究所と先進的がん治療を行う重粒子線医学研究センターが連携することにより基礎科学から臨床医学の最先端を短時間で幅広く体験できる機会を提供する。群馬県立前橋女子高等学校などの県内のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校を始めとする学校から生徒20名程度の参加希望者を本学に招き①研究者による最先端の生命科学に関する講義②実験の実践見学、研究施設の見学③女性若手研究者による進路選択の助言等を行う。
9	郷土の魅力を発見し、郷土学習や地域振興に活用可能な郷土かるたコレクションのWebコンテンツ拡充	総合情報メディアセンター		西村 淑子	中央図書館が所蔵する、全国でも稀有な郷土かるたコレクション(およそ290種)について、NPO法人日本郷土かるた協会(理事長:本学名誉教授 山口幸男氏)協力のもと、昨年度公開した「郷土かるたコレクション」Webページの画像コンテンツを拡充するとともに、解説動画の作成及び「郷土かるたハンドブック」冊子を作成して県内教育機関へ配布するほか、Webページでも公開し、郷土かるたの歴史的社会的価値を発信する。
10	前橋市、富岡市、桐生市との地域連携事業「街なか遊休不動産のリノベーションによる「多世代・多文化共生」の街づくりプロジェクト」	国際センター 国際センター公認学生団体 Le Pont(ルボン)		越智 貴子	本事業では、地域の国際化推進の貢献を目的として、本学国際センター公認の学生団体 Le Pont(ルボン)と前橋市、富岡市、桐生市と連携し、地域の遊休施設の利活用による街づくりを行う。具体的には①各市の街なかにおける空き家や空き店舗などの未活用不動産をリノベーションし、そこにおいて②「定住・交流・関係人口の創出」や「高齢者・障害者・外国人・子育て世代等の支援を含む地域課題の解決」につながる事業を実施する。
11	Society 5.0に対応可能な教員人材育成プログラム	数理データ科学教育研究センター 共同教育学部 理工学府		浅尾 高行 井上 仁 青木 悠樹 小熊 良一 田中 勇樹 茂木 和弘	小学校~高校教員を対象としたプログラミング、AI、センサ制御に関するオンライン教育コンテンツを作成し、数理データ科学教育研究センターで開発したG-moocsに実装する。 ぐんまプログラミング教育推進協議会、教育委員会と連携し周知することでSociety5.0に対応した教育を実施することができる教員人材育成を目指す。

No	事業名	学部等	学科等	担当	事業内容
12	障害のある子どもたちのスポーツ体験プロジェクトー群馬の自然と人を愛する心を育てるー	共同教育学部		木山 慶子 中雄 勇人 田井健太郎 島 孟留 霜田 浩信 霜触 智紀	群馬県内のスキー場において、障害のある子どもたちを対象としたスキー・雪遊び教室を開催する。日時は令和3年12月～令和4年2月のうちの5日間（5回）である。指導者および支援者は、群馬大学共同教育学部教員と同学生、さらに地域の方にも指導者としてご参加いただく。 本学の授業科目には「野外実習」があり、県内のスキー場において学生がスキーの技を学ぶ。よって講座教員は学外でスキーを教えることのノウハウをすでに有する。本事業では、対象を、障害のある子どもたちとし、教員が指導する、学生は学んだことを生かして支援する。
13	群馬県軟式野球選手を対象にした成長期スポーツ障害検診 群馬県高校野球投手メディカルチェック	医学系研究科 保健学研究科 医学部附属病院		筑田 博隆 田鹿 毅 設楽 仁	本事業は群馬県成長期軟式野球選手（小学生、中学生）高校野球投手を対象とし、成長期スポーツ障害（野球肩・肘、腰椎分離症、オスグッドシュラッター病）の有無並びに、全身のコンディションを調査し、個々の体の状態に応じたトレーニング指導、医療機関の受診指導を行う。 また野球指導者、保護者に対し検診結果をフィードバックし、スポーツ障害の予防について啓発することである。
14	オンラインこども科学体験教室	理工学府 数理データ科学教育研究センター	知能機械創生部門 分子科学部門	松原 雅昭 奥津 哲夫 鈴木 良祐 松浦 勉	オンラインであることを利用して、幼児や小学生およびその保護者に対して「チョコレートのテンパリング」について親子で学びながら楽しめる科学体験を提供する。身近な話題となるお菓子のチョコレートをを用いて温度の変化で組織がどう変わるかを学び、物理学や化学が関係することを実感させ、理科（科学）の重要性を認識させる。対象となる子供たちとその保護者に考えを根付かせることで、将来の理工系人材の充実に寄与することを旨とする。
15	動画で学ぶ科学ふしぎ発見！動画作成プロジェクト	理工学系技術部		齋藤 昭吾	理工学系技術部では子供向け科学イベントをコロナ禍前は年間15件ほど開催しており、科学イベントのノウハウは蓄積されている。その中でも人気の科学イベント動画を作成し、ネット上に公開することで、今までは近隣の子供しか参加できなかった科学イベントについて、動画を通して日本全国のたくさんの子供たちに科学の面白さを知っていただくことができる。また様々なロケーションで動画を撮影することで群馬大学への興味を持ってもらうことも可能と考える。

公開講座（2022年度）

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
手話で学ぶ手話講座 一手話とろう文化一	9日間（13.5時間）	30人
企業・産業分析スキル特論（金融ビジネスの基礎から実際まで）	9日間（22.5時間）	28人
社会起業家特論（先端応用情報学特講A・B）	9日間（22.5時間）	26人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
深掘り！日本手話のWH疑問文	1日間（1.5時間）	10人
通訳プロセスからみる同時通訳の技術向上	1日間（1.5時間）	10人
日本手話を活用しよう学校小学部の理科授業	1日間（1.5時間）	10人
高等教育機関における手話通訳	1日間（1.5時間）	10人
高校生サイエンスインストラクター育成プログラム①②	2日間（12.0時間）	各20人
ろう学校の現場で求められる社会福祉援助技術	1日間（1.5時間）	30人
日本手話と日本語の違いをふまえた手話翻訳	1日間（1.5時間）	10人
聴覚障害の心理：言語・文化・アイデンティティ	1日間（1.5時間）	30人
聴覚障害の心理：聴覚障害児のメンタルヘルス	1日間（1.5時間）	30人
聴覚障害の心理：発達・心理アセスメント	1日間（1.5時間）	30人

開放講座（2022年度）

Aコース「一般の方」対象

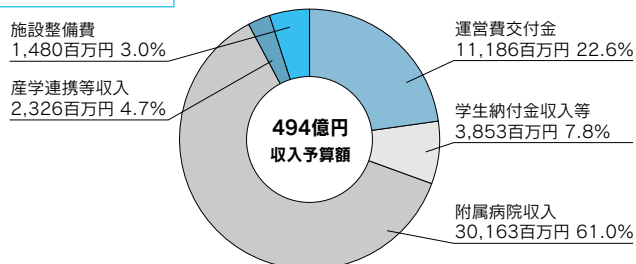
講座名	期間及び時間数	募集人数
英語の本を読もう	1日間（1.5時間）	20人
国際協力、はじめの一步！	1日間（3.0時間）	20人
大学改革と学生文化の変容	1日間（1.5時間）	100人
健康保険の「これまで」と「これから」	1日間（2.5時間）	20人

Bコース「専門技術者等」対象

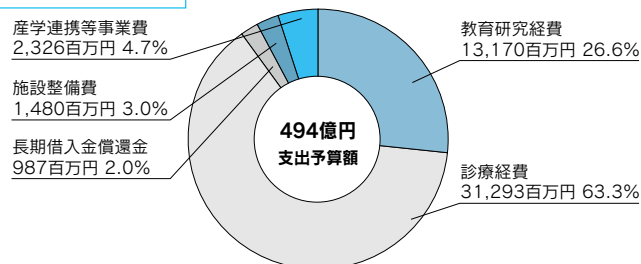
講座名	期間及び時間数	募集人数
アナログ集積回路研究会	30日間（45.0時間）	人数制限なし
手話で学ぶ初めての将棋	3日間（6.0時間）	各10人

2022年度収入・支出予算額

収入



支出



研究費等受入状況

科学研究費助成事業 (2022年度)

令和4 (2022) 年5月1日 (千円)

研究種目	件数	金額
新学術領域研究(研究領域提案型)	3	18,400
学術変革領域研究(A)	3	7,700
基盤研究(A)	4	22,400
基盤研究(B)	56	208,900
基盤研究(C)	265	245,400
挑戦的研究(開拓)	1	4,700
挑戦的研究(萌芽)	8	11,800
若手研究	94	93,100

研究種目	件数	金額
研究活動スタート支援	3	3,400
奨励研究	1	470
研究成果公開促進費(研究成果公表)	2	1,000
ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI	6	6,300
特別研究員奨励費	4	18,100
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	4	18,100
計	450	641,670

厚生労働科学研究費補助金等 (2021年度)

令和4 (2022) 年5月1日 (千円)

研究事業	件数	金額
がん対策推進総合研究事業	3	800
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	1	300
難治性疾患政策研究事業	13	4,700
免疫・アレルギー疾患政策研究事業	1	6,000
障害者政策総合研究事業	2	10,550

研究事業	件数	金額
エイズ対策政策研究事業及びその推進事業	1	10,000
肝炎等克服政策研究事業	1	400
食品の安全確保推進研究事業	1	4,983
計	23	37,733

補助金等 (2021年度)

令和4 (2022) 年5月1日 (千円)

区分	件数	金額
大学改革推進等補助金	2	104,228
研究拠点形成費補助金	2	9,745
設備整備費補助金	1	109,111
医療研究開発推進事業費補助金	1	20,567
科学技術人材育成費補助金	1	4,000
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	1	9,240
中小企業経営支援等対策費補助金	1	2,084
助成事業補助金	1	39,990
情報機器整備費補助金	1	1,174
授業料等減免費交付金	1	207,069
学校保健特別対策事業費補助金	2	7,500
感染症予防事業費等国庫負担(補助)金	1	29,657
群馬県感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	12,146

区分	件数	金額
県地域医療介護総合確保基金事業費補助金	3	2,109
群馬県救急医療施設運営費等補助金	1	2,317
県地域周産期母子医療センター運営補助金	1	36,412
新型コロナウイルス感染症対策助成金	1	1,000
教育支援体制整備事業費交付金	1	500
群馬県COVID-19対策事業費補助金	1	1,283,419
厚生労働省医療施設運営費等補助金	3	23,671
大阪府コロナ医療従事者派遣事業補助金	1	768
大阪府新型コロナ看護師派遣事業補助金	1	872
研究開発施設共用等促進費補助金	1	440
県COVID-19医療従事者等応援事業費補助金	1	104,175
計	31	2,012,194

寄附金 (2021年度・基金以外)

区分	件数	金額
寄附金	919	648,844

寄附金 (2021年度・基金)

事業名	件数	金額
学生の修学支援に資する事業	227	14,468
大学運営全般に係る事業	98	4,612
重粒子線治療の普及・発展に資する事業	34	3,112
学生等への研究等支援に資する事業	53	13,401
クラウドファンディング事業(小児用人工心臓の開発)	774	30,980
計	1,186	66,573

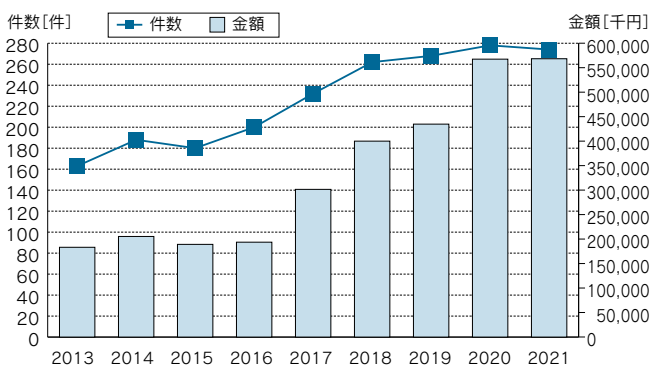
共同研究 (2021年度)

区分	件数	金額
共同研究	274	568,348

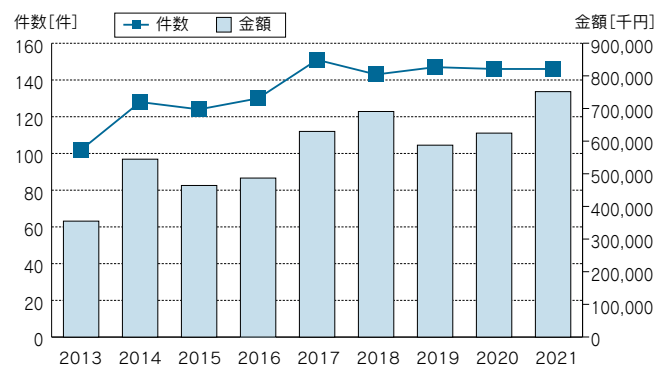
受託研究 (2021年度)

区分	件数	金額
受託研究	146	751,793

民間等との共同研究受入状況



民間等との受託研究受入状況



地区	部局等	土地面積	建物延面積
荒牧地区	共同教育学部 大学院教育学部 大学院社会情報学 総合情報メディアセン 大研・産学連携推進機 国際センター 数理データ科学教育研 食健康科学教育研究セ タイバーシテイ推進セ 事務局等	255,763	47,398
昭和地区	医学院医学系研究部 大学院保健学研究所 医学部附属病院科 生体調節研究所 重粒子線医学推進機 未来先端研究機構 昭和地区事務部等	161,631	(581) 178,263
若宮地区	共同教育学部附属幼稚園 共同教育学部附属小学校 共同教育学部附属特別支援学校	37,990	13,281
上沖地区	共同教育学部附属中学校	37,430	6,700
桐生地区	理工学部工学部	103,021	68,067
太田地区	大学院理工学部	(8,696)	(4,561)
その他の地区 (前橋市、桐生市、渋川市、長野原町)	大学生寄宿舎等 教職員宿舎等 伊香保研修所 北井沢研修所	36,199	16,286
合計		(8,696) 632,034	(5,142) 329,995

※ () 内の数字は借用面積で外数。

学部等所在地分布図

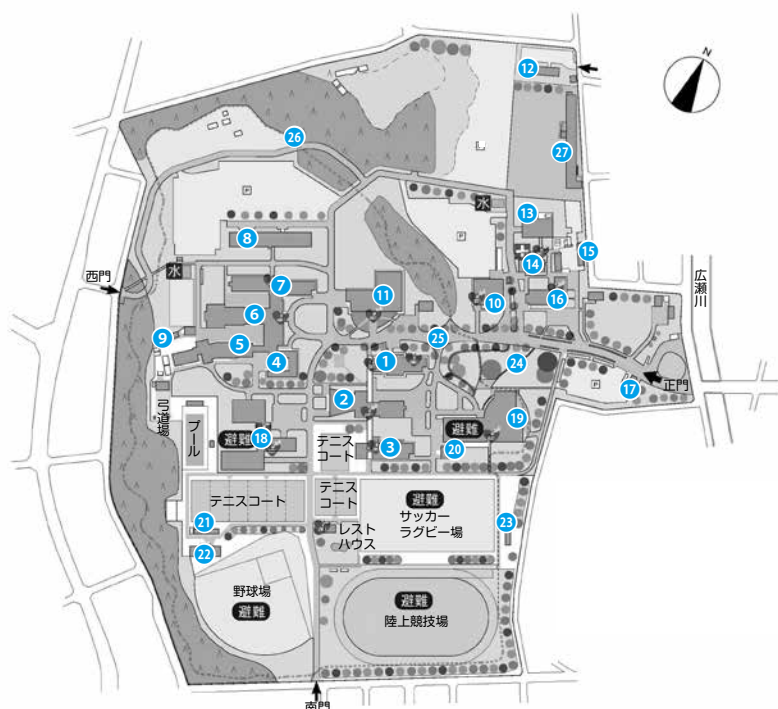


資料編

学部等所在地

符号	学部等の名称	所在地	電話	符号	学部等の名称	所在地	電話			
A	事務局	総務部	(027)220-7005 (総務係)	B	総合情報メディアセンター 理工学図書館	〒376-8516 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1079			
		財務部	(027)220-7044 (総務・監査係)		情報基盤部門桐生分室		(0277)30-1161			
		学務部	(027)220-7125 (総務係)		大学教育・学生支援機構 大学教育センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)			
		研究推進部	(027)220-7512 (総括係)		学生支援センター					
		施設運営部	(027)220-7088 (総務・契約係)		アドミッションセンター					
	荒牧地区環境美化室 共同教育学部 〃附属教育実践センター	(027)220-7017	健康支援総合センター 教育改革推進室							
	〃附属幼稚園	〒371-0032 前橋市若宮町2-5-3	(027)231-3170	研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)				
	〃附属小学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)231-2804 (代)	研究 U R A 室						
	〃附属中学校	〒371-0052 前橋市上沖町612	(027)231-3023 (代)	〃 〃 産学連携ワンストップサービスオフィス	B	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)			
	〃附属特別支援学校	〒371-0032 前橋市若宮町2-8-1	(027)232-9758	高度研究推進・支援部門 高度研究戦略室						
	大学院教育学研究科	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7204 (総務係)	〃 〃 機器分析センター						
	情報学部	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7403 (総務係)	〃 〃 高度人材育成部門 高度人材育成センター						
	医学部	〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)	A	〃 〃 研究支援人材育成コンソーシアム室	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7111 (代)			
	大学院医学系研究科 〃附属生物資源センター 〃附属薬剤耐性菌実験施設 〃附属教育研究支援センター 〃附属医学教育センター									
	大学院保健学研究科 〃附属保健学研究・教育センター				〒371-8514 前橋市昭和町3-39-22	B	〃 〃 産学連携・知的財産部門 産学連携・知的財産活用センター	〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-7111 (代)	
	医学部附属病院				〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15		〃 〃 リスクマネジメント室			
	B E				理工学部 大学院理工学府	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	A	〃 〃 次世代モビリティ社会実装研究センター 多職種連携教育研究研修センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町29-1	(0276)50-2231 (代)	重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター		〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7111 (代)			
		大学院理工学府附属元素科学 国際教育研究センター	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町1-5-1	(0277)30-1111 (代)	〃 〃 未来先端研究機構 国際センター			〒371-8510 前橋市荒牧町4-2	(027)220-7628	
	A	生体調節研究所 〃附属生体情報ゲノム リソースセンター 〃附属代謝シグナル 研究展開センター 〃附属拠点研究支援センター	〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15	(027)220-7111 (代)	B	数理データ科学教育研究センター 食健康科学教育研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町4-2			(027)220-7633
総合情報メディアセンター 中央図書館		〒371-8510 前橋市荒牧町4-2				(027)220-7185		C	共同利用設備総括センター	
〃 情報基盤部門							(027)220-7391		A	ダイバーシティ推進センター
〃 医学図書館		〒371-8513 前橋市昭和町3-39-22	(027)220-7882	D	伊香保研修所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯14-1	(0279)72-4605			
〃 情報基盤部門昭和分室		(027)220-8105			北軽井沢研修所			〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大楯2032-242	(027)220-7138	

荒牧地区 【所在地：前橋市荒牧町4-2】



- ① 1号館 (学生センター、大学教育・学生支援機構)
- ② 2号館 (教養大講堂)
- ③ 3号館 (数理データ科学教育研究センター、
ダイバーシティ推進センター)
- ④ 4号館 (共同教育学部)
- ⑤ 5号館 (共同教育学部)
- ⑥ 6号館 (共同教育学部)
- ⑦ 7号館 (共同教育学部、附属教育実践センター、
食健康科学教育研究センター)
- ⑧ 8号館 (共同教育学部、情報学部)
- ⑨ 9号館 (共同教育学部)
- ⑩ 10号館 (情報学部)
- ⑪ 総合情報メディアセンター中央図書館
- ⑫ 職員宿舎
- ⑬ 基幹棟 (中会議室他)
- ⑭ 健康支援総合センター
- ⑮ 荒牧地区環境美化室
- ⑯ 本部管理棟
- ⑰ 守衛所
- ⑱ 第一・第二体育館、武道館
- ⑲ 学生会館「アザレア」
(ミュージックホール、国際センター、アトリウムラウンジ)
- ⑳ キャリアサポート室
- ㉑ 体育管理施設
- ㉒ 課外活動施設 (共用施設棟)
- ㉓ 合宿研修施設
- ㉔ 憩いの広場
- ㉕ 中央モール
- ㉖ 遊歩道
- ㉗ 11号館 (次世代モビリティ社会実装研究センター)

昭和地区 【所在地①：前橋市昭和町3-39-15 (医学部附属病院・生体調節研究所ほか)】
【所在地②：前橋市昭和町3-39-22 (医学部ほか)】



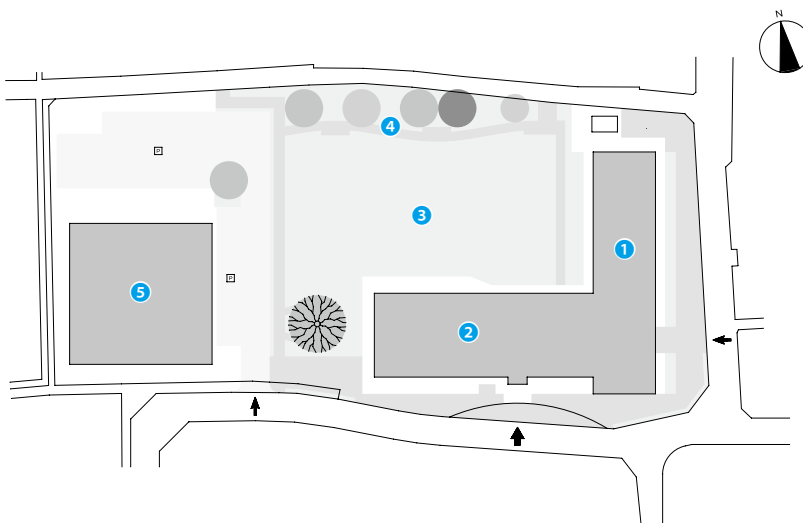
- ① 保健学科西棟・中央棟
- ② 保健学科新棟・南棟
- ③ 学生食堂
- ④ 中央機械室
- ⑤ 生体調節研究所
- ⑥ R1研究棟
- ⑦ 特高受電室
- ⑧ 生体情報ゲノムリソースセンター
- ⑨ 生物資源センター (1)
- ⑩ 生物資源センター (2)
- ⑪ 臨床研究棟A (1F:黒梅ホール)
- ⑫ 臨床研究棟B
- ⑬ 基礎医学棟
- ⑭ 医学部講義棟
- ⑮ 刀城会館 (記念会館)
- ⑯ 総合情報メディアセンター医学図書館
- ⑰ 共用施設棟
- ⑱ 臨床講堂
- ⑲ 特別診療棟
- ⑳ 診療棟1
- ㉑ 診療棟2
- ㉒ 診療棟3
- ㉓ 北病棟
- ㉔ 南病棟
- ㉕ 外来診療棟
- ㉖ 体育館：課外活動施設
- ㉗ プロジェクト棟 (1F:石井ホール)
- ㉘ 中央診療棟
- ㉙ 立体駐車場南
- ㉚ 立体駐車場北
- ㉛ 重粒子線医学センター (重粒子線照射施設)
- ㉜ 保育所 (ゆめのこ保育園)
- ㉝ アメニティモール
- ㉞ 東棟
- ㉟ 非常用発電機室
- ㊱ しらぎく棟
- ㊲ 多機能診療棟

桐生地区 【所在地：桐生市天神町1-5-1】



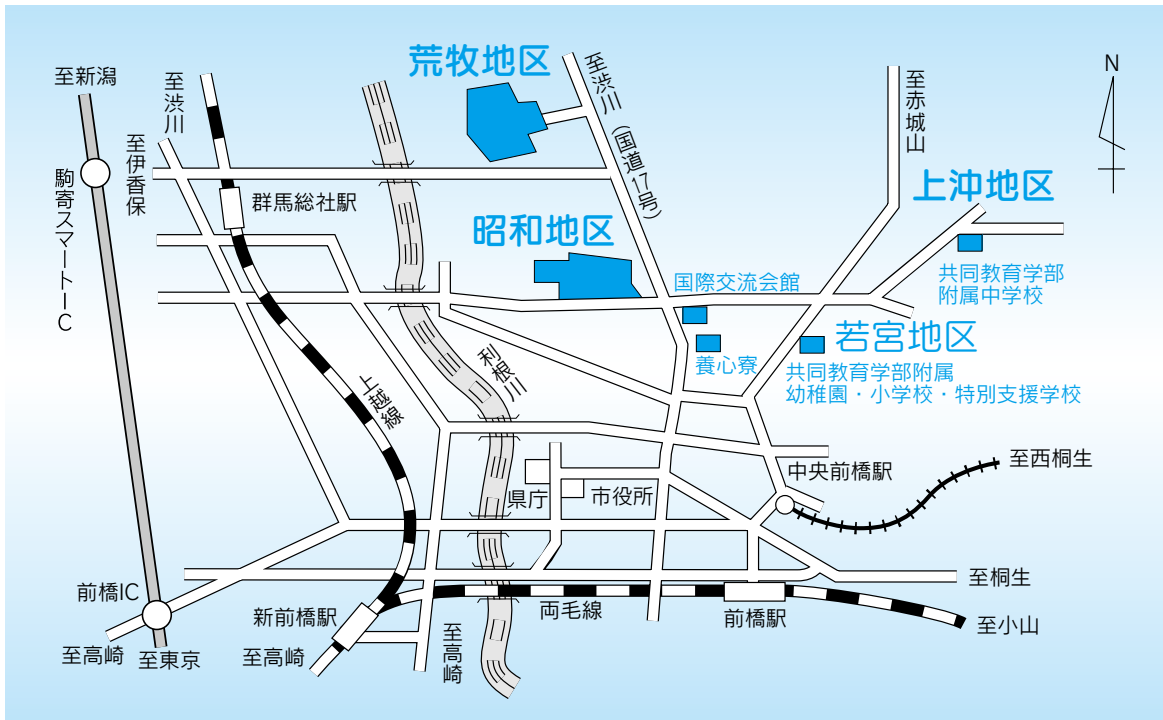
- ① A棟（研究・産学連携推進機構）
- ② B棟（研究・産学連携推進機構）
- ③ C棟（研究・産学連携推進機構）
- ④ 同窓記念会館
- ⑤ 車庫
- ⑥ 工学部会館
- ⑦ 環境保全支援センター
- ⑧ 7号館
- ⑨ 実験棟
- ⑩ 1号館
- ⑪ 講義棟
- ⑫ 4号館
- ⑬ 5号館
- ⑭ 総合情報メディアセンター理工学図書館
- ⑮ プロジェクト棟
- ⑯ 電子計算機棟
- ⑰ 6号館
- ⑱ 2号館
- ⑲ 基幹棟
- ⑳ 3号館
- ㉑ 8号館N棟
- ㉒ 8号館S棟
- ㉓ 危険薬品庫
- ㉔ 特別実験棟
- ㉕ RI実験施設 1、2
- ㉖ 原動機棟
- ㉗ 研究推進支援センター
- ㉘ 医理工共用研究棟
- ㉙ 体育館
- ㉚ 合宿所
- ㉛ 課外活動施設
- ㉜ 総合研究棟、機器分析センター

太田地区 【所在地：太田市本町29-1】



- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター

荒牧、昭和、若宮、上沖地区



荒牧地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8 Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
・群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）
・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分+徒歩10分）
JR新前橋駅東口乗り場（関越交通バス）
・群大病院・群馬大学荒牧経由総合スポーツセンター行「商工連会館前」下車（所要時間約32分+徒歩5分）

若宮地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2 Km

バス

JR前橋駅北口3番乗り場
・総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約8分）（日本中央バス）
JR前橋駅北口6番乗り場
・富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約8分）（関越交通バス・日本中央バス）
・国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車（所要時間約9分）（関越交通バス）
・嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約6分）（永井バス）

昭和地区

JR

JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4 Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1 Km

バス

JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
・全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分+徒歩6分）
・群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橘団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橘団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）
JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）
・群馬総社駅「群大病院」下車（所要時間約15分）

上沖地区

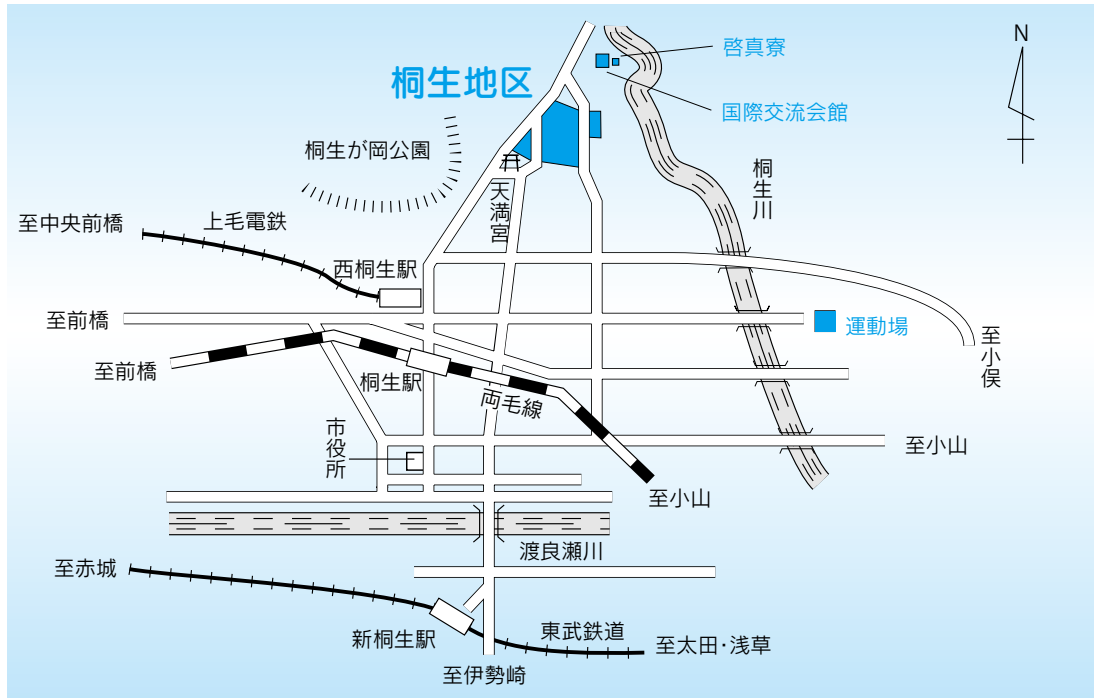
JR

JR 両毛線にて前橋駅下車、北方へ4 Km

バス

JR前橋駅北口6番乗り場
・富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約9分+徒歩15分）（関越交通バス）
・嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約11分+徒歩10分）（永井バス）

桐生地区



桐生地区

■JR

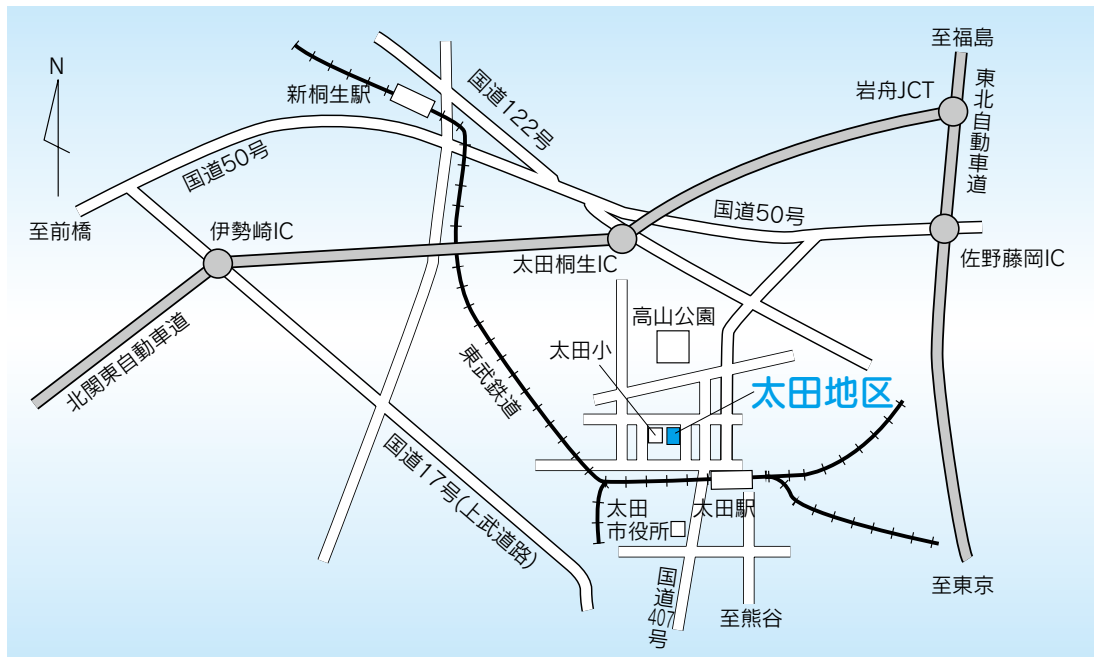
JR桐毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km
東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

■バス

JR桐生駅北口乗り場（おりひめバス）

- ・旧女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）
- ・菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）
- ・旧女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）

太田地区



太田地区

- 東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）
- 北関東自動車道 太田桐生IC から約10分

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
3. とうとうと大地^{だいち}をゆする歌声は
青春の叡智^{えいち}の調べ
魂^{たま}さやか 眉^{まゆ}さとく
ああ深奥^{しんおう}の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑
4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の生命^{いのち}の調べ
暁^{あけ}しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑



国立大学法人群馬大学徽章 昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク 平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。

広報誌「GU'DAY(グッテイ)」

群馬大学は、年に2回（夏号・冬号）大学の最新トピックをお届けする広報誌「GU'DAY」を作成しています。

BACK NUMBER



【特集】
群大、クローズアップ！



【特集】
コロナに負けるな！



【特集】
コロナ時代のキャンパスライフ



【特集】
学長×在学生トーク



【特集】
群大生の生態図鑑



【特集】
学生広報大使
特別コラボ企画！

学年暦

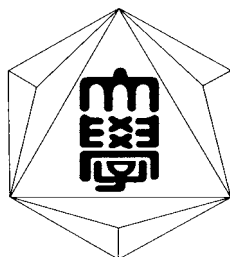
区分	教養教育	共同教育学部	情報学部	医学部		理工学部 (桐生・太田)
				医学科	保健学科	
学 年 開 始	4月1日					
春 季 休 業	4月1日～4月7日			4月1日～4月6日		4月1日～4月7日
入 学 式	4月5日					
新 入 生 オリエンテーション	4月4～7日 (学部・学科・類別に開催します。)					
前 学 期 授 業 開 始	4月8日			4月7日		4月8日
開 学 記 念 日	6月1日					
前 学 期 授 業 終 了	7月29日					8月1日
前 学 期 期 末 試 験	8月1日～8月5日					8月2日～8月10日
夏 季 休 業	8月6日～9月30日			8月7日～9月30日		8月11日～9月30日
後 学 期 授 業 開 始	10月3日					
冬 季 休 業	12月27日～1月4日					
後 学 期 授 業 終 了	2月3日					2月6日
後 学 期 期 末 試 験	2月6日～2月10日					2月7日～2月15日
学 年 末 休 業	2月11日～3月31日					2月16日～3月31日
学 位 記 授 与 式	3月23日					
学 年 終 了	3月31日					

*医学部医学科については、高学年を除く。
*理工学部1年生は、「教養教育」の欄による。



認証評価認定マーク 平成28年3月24日認定

独立行政法人大学評価・学位授与機構（現：大学改革支援・学位授与機構）による平成27年度実施の大学機関別認証評価において、「本学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



群馬大学公式HP・SNS

群馬大学に関する情報をHP・SNSにて随時発信中!



群馬大学公式HP



Facebook



LINE



Instagram



Twitter



YouTube

発行日

2022年9月発行

編集

国立大学法人群馬大学広報本部
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL.027-220-7010、7011 FAX.027-220-7012
URL:<https://www.gunma-u.ac.jp>

リサイクル適性[Ⓐ]

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



UNIVERSITY
ACCREDITED
March 2016